

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 国際経済学部 国際経済学科

1. <学生確保の見通しが不明確>

学生確保の見通しとして、アンケート結果が示され入学定員を超える入学希望者が示されているが、他方で「全国及び新潟県における18歳人口の推移」では、今後も減少が予測されていることに加え、「類似する大学・学部等の志願状況」においては、新潟県内の同分野の学部の志願者数が近年大幅に減少していることが示されている。このような状況の中においても、本学部が中長期的に学生確保が可能であることについて、入学定員の設定の妥当性を含め明確にすること。

（是正事項） 1

2. <数学の基礎学力の担保の方策が不明確>

ディプロマ・ポリシーにおける「基本的技能・態度」において、「統計データを用いた分析やデータの処理・分析に必要な基礎力を身に付ける」と掲げられている。他方で、4つの入学者選抜試験において、数学を課さない試験もある。上記のディプロマ・ポリシーの資質・能力を身に付けるために必要な数学の基礎学力が不十分な学生に対しては、入学後において補習等の学修支援が必要と考えられるため、数学の基礎学力を担保する方策を明確にすること。

（是正事項） 7

3. <教育課程の特色が不明確>

教育課程において、「国際性の涵養」として「露中韓言語科目」が設けられ、また、地域への関心と問題意識を広く持つよう促すことを目的として、「現代教養」の「新潟学」の科目区分が設けられているが、いずれもいわゆる教養科目である「基盤科目」であるため、「専門科目」においても、このような新潟県立大学として特色ある教育課程が編成されていることを説明すること。

（改善事項） 9

4. <シラバスの授業科目名が不適切>

シラバスの「授業科目名」が英語で表記されている科目の中に、授業科目名として適切ではないと考えられるものがあるので、修正すること。

（改善事項） 13

5. <海外研修の実施体制等が不明確>

いわゆる教養科目である「基盤科目」に選択科目として配置されている「海外英語研修A(長期)」などの5科目について、どの程度の学生が履修することを想定しているのかを明確にするとともに、これらの科目のうち専任教員が配置されているのは「海外英語研修A(長期)」のみとなっており、他の4科目は兼任教員が担当する計画となっている。このため、想定される履修者数を踏まえた適切な指導体制となっているのか明確にすること。また、各科目に係る海外研修の具体的な内容が不明確であるため明確にするとともに、「成績評価及び単位認定方法」については科目及び海外研修先ごとに、単位設定の妥当性を含めより具体的に説明すること。

(是正事項) 15

6. <演習科目の妥当性が不明確>

必修科目である「入門演習Ⅰ・Ⅱ」や「専門演習Ⅰ～Ⅳ」は、履修を希望する教員に偏りが生じることが想定されるが、どのように学生の履修希望を調整するのかを明確にすること。また、各科目の単位設定の妥当性が不明確なため、考え方を明確にするか、必要に応じて修正すること。特に「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)」における卒業論文指導の単位設定の関係性を明らかにすること。なお、科目間でシラバスの「授業計画」の記載内容に偏りがあるものや、授業内で「教員による個別指導」を行う旨の記載があり、授業内で個別指導を行うことが適切なのか疑義があるため、妥当性を明確にするか修正すること。

(是正事項) 27

7. <施設・設備が不明確>

図面上、学生自習室が確認できないため、明確にすること。また、統計データを扱うソフトウェアのライセンスが整備される計画となっているのかを説明すること。

(是正事項) 34

(是正事項) 国際経済学部 国際経済学科

1. <学生確保の見通しが不明確>

学生確保の見通しとして、アンケート結果が示され入学定員を超える入学希望者が示されているが、他方で「全国及び新潟県における18歳人口の推移」では、今後も減少が予測されていることに加え、「類似する大学・学部等の志願状況」においては、新潟県内の同分野の学部の志願者数が近年大幅に減少していることが示されている。このような状況の中においても、本学部が中長期的に学生確保が可能であることについて、入学定員の設定の妥当性を含め明確にすること。

(対応)

御指摘を踏まえて、資料を追加しつつ、本学部の中長期的学生確保が可能であることについて、入学定員の設定の妥当性を含め明確となるよう記載する。

新潟県・大学私学振興課の調査によると、平成28年度の新潟県内出身者の大学進学総数(9,240名)のうち、経済系学部への進学者の規模が学部別で最大規模(1,458名)であり、そのうち県外大学への進学者数においても学部別に見て最大規模(1,100名)に達しており、その主要進学先は首都圏における私立大学であることが示されている。このことから新潟県内には経済系学部への進学志願者が多数おり、そのうちの多くが県外大学に進学していることが示される。

他方、新潟県に所在する国立大学の経済系学部への志願者数では、一部の入試日程における志願者数に一時期減少が見られたものの、最近再び増加に転じており、志願者数全体(社会人特別入試を除く。)は、平成26年度入試の864名から平成31年度入試の1,041名までの間において、安定的に高い水準で推移している。過去10年において新潟県の高卒業者数が減少している中で、県内国立大学の経済系学部への志願者数は、年々のばらつきはあるものの、むしろ増加あるいは堅調な推移を示している(資料5-2参照)。このことから、新潟県内の国立大学の経済系学部に対するニーズは底堅いものがあると考えられる。

また、本学の人文・社会科学系学部である国際地域学部への志願者数においては、創立以来、入学定員を大幅に超える(約10倍)状態が続いており、18歳人口の減少が見られる近年においても、その志願者数(平成31年度1,790名)は減少することなく、堅調に推移してきている。その出身地域別の内訳を見ると、県内出身志願者数が約6割強、近隣県を始めとする全国各地の県外出身者が約4割弱を占める関係が続いており、いずれの志願者数も堅調であり、志願者数の減少はみられない。

こうした全般的な状況から、本学部は、底堅いニーズのある県内出身の経済系学部志願者の志願先になるとともに、近隣県における経済系学部への志願者の志願先にもなりうるものと見込まれる。

さらに実態に即した志願者数の見通しを精査するべく、2018年10月から11月にかけて、県内及び近県の高校2年生を対象に第三者機関によるアンケート調査を実施したところである。

この調査によると、県内出身者に関しては「(本学部)に入学したいと思う」が1,831名、「受験したいと思う」が933名、「受験し入学したいと思う」が826名である。また、県外出身者に関しては「(本学部)に入学したいと思う」が1,240名、「受験したいと思う」が657名、「受験し入学したいと思う」が565名という結果を得ている。「受験し入学したいと思う」との意思表示をした県内出身者と県外出身者の合計数を本学への志願者数と見なすならば、その数は1,300名超となる。

先に見た本学国際地域学部においては、定員180名に対して実際に見られる志願者数が約10倍の1,700名であることに鑑みると、本学部への志願者として想定される1,300名超は、本学部の定員90名の10倍を超過している。

定員90名の設定は、このような志願者数の現状・見込を総合的に勘案したものであり、十分に学生確保が可能な規模のものと考えられる。

さらに、近年における本学人文・社会科学系学部への志願者数、県内に所在する国立大学の経済学系学部への志願者数がいずれも、18歳人口の減少等にもかかわらず、継続して堅調に推移してきている実績に鑑みると、本学部への志願状況も底堅く維持されるものと予想される。

このような趣旨を「学生確保の見通し等を記載した書類」に追加的に記載することとした。

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (2～4ページ)

新	旧
(2ページ) 1 学生確保の見通し (2) 定員充足の見込み (略) 県内出身者の大学進学状況について、新潟県大学・私学振興課の調べによると、平成28年度、進学者総数9,240人のうち5,932人(64.2%)が首都圏等県外大学に進学している。特に、分野別では、 <u>経済系学部への進学者の規模が学部別で最大規模(1,458名)であり、そのうち県外大学への進学者数においても学部別に見て最大規模(1,100名)に達しており、その主要進学先は首都圏における私立大学であることが示されている。(資料3) このことから新潟県内には</u>	(2ページ 2行目) 1 学生確保の見通し (2) 定員充足の見込み (略) 県内出身者の大学進学状況について、新潟県大学・私学振興課の調べによると、平成28年度、進学者総数9,240人のうち5,932人(64.2%)が首都圏等県外大学に進学している。特に、分野別では経済系学部進学者1,458人のうち1,100人が県外へ進学しており、学科系統別では県外進学が最大となっている。(資料3)

<p><u>経済系学部への進学志願者が多数おり、そのうちの多くが県外大学に進学していることが示される。</u></p> <p>県内の教育需要の特徴を把握するため、 ・ ・ (略) ・ ・</p> <p>これらの者については、本学部進学の実確な需要が見込まれる。</p> <p>このように新潟県内の高校生が大学進学 ・ ・ (略) ・ ・</p> <p>経済系の新学部が設置されれば、今まで首都圏等の大学に進学していた層の中から多くの者が新学部に進学するものと見込まれる。」としている。(資料5-1)</p> <p><u>一方、新潟県に所在する国立大学の経済系学部への志願者数では、一部の入試日程における志願者数に一時期減少が見られたものの、最近再び増加に転じており、志願者数全体(社会人特別入試を除く。)は、平成26年度入試の864名から平成31年度入試の1,041名までの間において、安定的に高い水準で推移している。過去10年において新潟県の高校卒業者数が減少している中で、県内国立大学の経済系学部への志願者数は、年々のばらつきはあるものの、むしろ増加あるいは堅調な推移を示している(資料5-2)。このことから、新潟県内の国立大学の経済系学部に対するニーズは底堅いものがあると考えられる。</u></p> <p><u>また、本学の人文・社会科学系学部である国際地域学部への志願者数においては、創立以来、入学定員を大幅に超える(約10倍)状態が続いており、18歳人口の減少が見られる近年においても、その志願者数(平成31年度1,790名)は減少することなく、堅調に推移してきている。その出身地域別の内訳を見ると、県内出身志願者数が約6割強、近隣県を始めとする全国各地の県外</u></p>	<p>県内の教育需要の特徴を把握するため、 ・ ・ (略) ・ ・</p> <p>これらの者については、本学部進学の実確な需要が見込まれる。</p> <p>このように新潟県内の高校生が大学進学 ・ ・ (略) ・ ・</p> <p>経済系の新学部が設置されれば、今まで首都圏等の大学に進学していた層の中から多くの者が新学部に進学するものと見込まれる。」としている。(資料5)</p>
--	---

出身者が約4割弱を占める関係が続いており、いずれの志願者数も堅調であり、志願者数の減少はみられない。

こうした全般的な状況から、本学部は、底堅いニーズのある県内出身の経済系学部志願者の志願先になるとともに、近隣県における経済系学部への志願者の志願先にもなりうるものと見込まれる。

さらに、最新の客観的データを把握する
 ・ ・ (略) ・ ・

といずれも多数にのぼっている。

次に、同調査で本学部への入学及び受験
 ・ ・ (略) ・ ・

大幅に上回っている。

表1 受験・入学希望に関するアンケート回答数

受験・入学意向	全体	新潟県内	新潟県外
A. 受験して合格したら入学したいと思う	3,071名	1,831名	1,240名
B. 受験したいと思う	1,590名	933名	657名
C. 受験し入学したいと思う	1,391名	826名	565名
回答総数	10,104名	6,584名	3,520名

これを県内、県外別に見ると、県内出身者に関しては「(本学部に) 入学したいと思う」が1,831名、「受験したいと思う」が933名、「受験し入学したいと思う」が826名である。また、県外出身者に関しては「(本学部に) 入学したいと思う」が1,240名、「受験したいと思う」が657名、「受験し入学したいと思う」が565名という結果を得ている。既に触れたとおり、「受験し入学したいと思う」との意思表示をした県内出身者と県外出身者の合計数を本学への志願者数と見なすならば、その数は1,300名超となる。

(2ページ 下から13行目)

さらに、最新の客観的データを把握する
 ・ ・ (略) ・ ・

といずれも多数にのぼっている。

次に、同調査で本学部への入学及び受験
 ・ ・ (略) ・ ・

大幅に上回っている。新潟県に限った場合も、回答総数6,584名のうち、A「入学したいと思う」1,831名、B「受験したいと思う」933名、C「受験し入学したいと思う」826名と同様に定員数を大幅に上回る結果となっている。

表1 受験・入学希望に関するアンケート回答数

受験・入学意向	全体	新潟県内
A. 受験して合格したら入学したいと思う	3,071名	1,831名
B. 受験したいと思う	1,590名	933名
C. 受験し入学したいと思う	1,391名	826名
回答総数	10,104名	6,584名

<p><u>先に見た本学国際地域学部においては、定員 180 名に対して実際に見られる志願者数が約 10 倍の 1,700 名であることに鑑みると、本学部への志願者として想定される 1,300 名超は、本学部の定員 90 名の 10 倍を超過している。</u></p> <p><u>定員 90 名の設定は、このような志願者数の現状・見込を総合的に勘案したものであり、十分に学生確保が可能な規模のものと考えられる。</u></p> <p><u>さらに、近年における本学人文・社会科学系学部への志願者数、県内に所在する国立大学の経済学系学部への志願者数がいずれも、18 歳人口の減少等にもかかわらず、継続して堅調に推移してきている実績に鑑みると、本学部への志願状況も底堅く維持されるものと予想される。</u></p>	
<p>(4 ページ)</p> <p>②本学既設学部の状況</p> <p>本学の既設学部（国際地域学部、人間生活学部）の志願状況は、過去 5 年間の志願倍率で 9.67 倍、実質倍率で概ね 3 倍前後を維持している。また平成 21 年の開学以来、入学定員は常に充足している。(資料 7)</p> <p><u>既に触れたとおり、本学の人文・社会科学系学部である国際地域学部への志願者数においては、創立以来、入学定員を大幅に超える(約 10 倍)状態が続いており、18 歳人口の減少が見られる近年においても、その志願者数(平成 31 年度 1,790 名)は減少することなく、堅調に推移してきている。</u></p> <p>(略)</p>	<p>(3 ページ)</p> <p>②本学既設学部の状況</p> <p>本学の既設学部（国際地域学部、人間生活学部）の志願状況は、過去 5 年間の志願倍率で 9.67 倍、実質倍率で概ね 3 倍前後を維持している。また平成 21 年の開学以来、入学定員は常に充足している。(資料 7)</p>

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (資料編 資料 5-2、資料 8)

新	旧
別紙資料 1 【新】参照 (資料 5-2) 新規追加	

<p>上記により、資料番号の（資料5）を<u>（資料5-1）</u>に変更</p>	<p>（資料5）</p>
<p>別紙資料2【新】参照 （資料8）志願者数の推移を「平成27年度から31年度の5年間分」掲載</p>	<p>別紙資料2【旧】参照 （資料8）志願者数の推移を「平成28年度から30年度の3年間分」掲載</p>

(是正事項) 国際経済学部 国際経済学科

2. <数学の基礎学力の担保の方策が不明確>

ディプロマ・ポリシーにおける「基本的技能・態度」において、「統計データを用いた分析やデータの処理・分析に必要な基礎力を身に付ける」と掲げられている。他方で、4つの入学者選抜試験において、数学を課さない試験もある。上記のディプロマ・ポリシーの資質・能力を身に付けるために必要な数学の基礎学力が不十分な学生に対しては、入学後において補習等の学修支援が必要と考えられるため、数学の基礎学力を担保する方策を明確にすること。

(対応)

本学部では、入学者選抜試験に数学を課す方式と課さない方式の両方を採用することから、入学者が高校において履修した数学科目の内容に幅があり、この結果、数学の基礎学力に一定の差があることが予想される。ディプロマ・ポリシーにおける「基本的技能・態度」において掲げる「統計データを用いた分析やデータの処理・分析に必要な基礎力を身に付ける」上で、必要な数学の基礎学力が不十分な学生に対しては、入学後において学習支援が必要と考えられる。このため、経済学を学ぶために必要な数学の知識を身に付けさせることを目的に1年次後期に設定した「経済数学入門」の履修に先立ち、入学当初に行うアチーブメントテストの結果に基づき対象者を選定し、数学の基礎学力を担保する方策として 補習授業を1年次前期において15コマ(1コマ90分)、正規カリキュラム外で実施する。具体的な補習内容については、学習指導要領数学編と経済学を学ぶ上で必要となる数学の基礎的知識とし、以下の通りとする。

数と式(式の展開、因数分解、数と集合、一次不等式)、二次関数、指数関数と対数関数、関数とグラフ、連立方程式、数列と級数、極限、微分・積分の考え(微分係数と導関数)

補習は、高校の数学と大学で学ぶ経済学との繋がりを意識し、適宜経済学における事例を紹介しながら、各単元の問題を解かせる演習課題も含めて実施する。

このような趣旨を「設置の趣旨等を記載した書類」に追加的に記載することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15 ページ)

新	旧
(15 ページ) さらに情報・データ分析関連科目への入門科目として「統計分析入門」「経済数学入門」を配置する。こうした入門科目の履修により、専門科目への円滑な履修を図る。	(15 ページ 18 行目) さらに情報・データ分析関連科目への入門科目として「統計分析入門」「経済数学入門」を配置する。こうした入門科目の履修により、専門科目への円滑な履修を図る。

なお、本学部では、入学者選抜試験に数学を課す方式と課さない方式の両方を採用することから、入学者が高校において履修した数学科目の内容に幅があり、この結果、数学の基礎学力に一定の差があることが予想される。ディプロマ・ポリシーにおける「基本的技能・態度」において掲げる「統計データを用いた分析やデータの処理・分析に必要な基礎力を身に付ける」上で、必要な数学の基礎学力が不十分な学生に対しては、入学後において学習支援が必要と考えられる。このため、経済学を学ぶために必要な数学の知識を身に付けさせることを目的に1年次後期に設定した「経済数学入門」の履修に先立ち、入学当初に行うアチーブメントテストの結果に基づき対象者を選定し、数学の基礎学力を担保する方策として補習授業を1年次前期において15コマ（1コマ90分）、正規カリキュラム外で実施する。具体的な補習内容については、学習指導要領数学編と経済学を学ぶ上で必要となる数学の基礎的知識とし、以下の通りとする。

数と式(式の展開、因数分解、数と集合、一次不等式)、二次関数、指数関数と対数関数、関数とグラフ、連立方程式、数列と級数、極限、微分・積分の考え(微分係数と導関数)

補習は、高校の数学と大学で学ぶ経済学との繋がりを意識し、適宜経済学における事例を紹介しながら、各単元の問題を解かせる演習課題も含めて実施する。

(改善事項) 国際経済学部 国際経済学科

3. <教育課程の特色が不明確>

教育課程において、「国際性の涵養」として「露中韓言語科目」が設けられ、また、地域への関心と問題意識を広く持つよう促すことを目的として、「現代教養」の「新潟学」の科目区分が設けられているが、いずれもいわゆる教養科目である「基盤科目」であるため、「専門科目」においても、このような新潟県立大学として特色ある教育課程が編成されていることを説明すること。

(対応)

本学は創立以来、大学の基本理念として「国際性の涵養」「地域性の重視」「人間性の涵養」の三つを掲げている。本学部においてもこの理念に基づき、「基盤科目」において「国際性の涵養」の観点から2年次、3年次の選択必修科目として「露中韓言語科目」、「地域性の重視」の観点から、「現代教養」の「新潟学」の科目区分を設けている。

専門科目においても、「国際性の涵養」の観点からは、(1) 入門科目として「世界経済入門」「国際経済入門」、専門基礎科目として「国際貿易Ⅰ・Ⅱ」「国際金融Ⅰ・Ⅱ」「開発経済論」「新興国経済論」という国際経済分野に関連の深い科目を数多く設けることに加え、(2) 東アジアと密接に関わる新潟に位置する本学の教育上の特色を生かして、専門応用科目として「ロシア経済」「中国経済」「韓国経済」の各科目を設けることとしている。(3) さらに専門科目を英語で学ぶことにより国際性を伸ばす観点から、「Current Issues in Japanese Economy」「Current Issues in the World Economy」「Economic Growth」「Global Financial Market」「Internationalization of Firms」「Development Policy Studies」等英語による専門科目を数多く設けることとし、加えて、(4) 英語で東アジア経済を学ぶという教育上の特徴を生かす観点から、「Current Issues in the East Asian Economy」「Business Studies in North East Asia」「Economic Integration in ASEAN」等の科目を設けている。

また、「地域性の重視」の観点からは、専門科目において、(1) 入門科目として「地域経済創生入門」、専門基礎科目として「地域環境学」「地域産業創出概論」「地域イノベーション政策Ⅰ・Ⅱ」「地域情報論」「地域デザイン論Ⅰ・Ⅱ」、(2) 専門応用科目として「環境と地域インフラ」「地域産業論 A (ものづくり)・B (サービス産業)・C (地域インフラ)」、「知的財産と地域経済」という地域経済創生関連科目を数多く設けるとともに、(3) それぞれの科目においては新潟県の統計データに基づく実情の紹介やそれを踏まえた具体的課題及びその解決策について学修を進める。特に「地域産業論 A・B・C」は、本学の立地に根差した地域性等に配慮して選んだ製造業、観光産業等のサービス産業、電力・通信・インフラ等に関連し地域性を有する産業という産業毎に授業科目を設定し、科目の前段ではそれぞれの産業に知見を有する専任教員が産業特性・地域特性等について講義を行い、後段ではその産業に関わり専門的知見を有する外部講師を招いてより実態に即した産業の特徴や課題を明らかにしていく。こうした外部講師の選定に当たって新潟県内の関係者を積極的に活用す

る。

このような趣旨を「設置の趣旨等を記載した書類」に追加的に記載することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (23～24 ページ)

新	旧
<p>(23 ページ)</p> <p>1 教育方法、履修指導方法</p> <p>(1) 教育方法</p> <p><u>本学は創立以来、大学の基本理念として「国際性の涵養」「地域性の重視」「人間性の涵養」の三つを掲げている。これまで述べてきた本学部の教育の特色を大学の基本理念との関係で改めて整理すると以下のようになる。</u></p> <p><u>まず「基盤科目」においては、本学の特徴的取り組みを示すものとして、「国際性の涵養」の観点から2年次、3年次の選択必修科目として「露中韓言語科目」、「地域性の重視」の観点から、「現代教養」の「新潟学」の科目区分を設けている。この背景には、</u></p> <p>「国際経済学部開設の必要性」で述べた通り、新潟県が日本海を挟んでロシア、中国、韓国と対面し、東アジアとのネットワークの深化と拡大は<u>地域</u>の経済発展にとって不可欠な特異な地理的条件がある。このため国際的視野を備え東アジアの経済・産業・企業に強い人材の育成は新潟県の発展にとって最重要課題であり、新潟県が設置した「新潟県立大学新学部設置に関する有識者会議」の報告書（平成29年11月）でもこの点を特に強調している。しかもそうした人材を育成する上で、「国際性の涵養」という基本理念の下で本学がこれまで蓄えてきた外国語教育の経験やそれを担う外国人教員の定着等のポテンシャルは高い。また、東アジアに軸足を置いた国際関係論を中心に既存学部、大学院で研究の蓄積が進み、</p>	<p>(22 ページ)</p> <p>1 教育方法、履修指導方法</p> <p>(1) 教育方法</p> <p>「国際経済学部開設の必要性」で述べた通り、新潟は日本海を挟んでロシア、中国、韓国と対面し、東アジアとのネットワークの深化と拡大は経済発展にとって不可欠な特異な地理的条件にある。このため国際的視野を備え東アジアの経済・産業・企業に強い人材の育成は新潟の発展にとって最重要課題であり、新潟県が設置した「新潟県立大学新学部設置に関する有識者会議」の報告書（平成29年11月）でもこの点を特に強調している。しかもそうした人材を育成する上で、「国際性の涵養」という基本理念の下で本学がこれまで蓄えてきた外国語教育の経験やそれを担う外国人教員の定着等のポテンシャルは高い。また、東アジアに軸足を置いた国際関係論を中心に既存学部、大学院で研究の蓄積が進み、本学研究者の海外研究者とのネットワークの活用も可能である。本学において新潟のさらなる国際的発展を人材面で支える本学部を開設する必要性及び意義はこの点にある。</p> <p>こうした大きな目的を実現するため、本学部では各科目分野で以下のような特色ある教育方法を採用する。</p>

本学研究者の海外研究者とのネットワークの活用も可能である。本学において新潟県のさらなる国際的発展を人材面で支える本学部を開設する必要性及び意義はこの点にある。

こうした基本的考え方は、本学部の専門科目においても重視されている。まず、「国際性の涵養」の観点からは、(1) 入門科目として「世界経済入門」「国際経済入門」、専門基礎科目として「国際貿易Ⅰ・Ⅱ」「国際金融Ⅰ・Ⅱ」「開発経済論」「新興国経済論」という国際経済分野に関連の深い科目を数多く設けることに加え、(2) 東アジアと密接に関わる新潟に位置する本学の教育上の特色を生かして、専門応用科目として「ロシア経済」「中国経済」「韓国経済」の各科目を設けることとしている。(3) さらに専門科目を英語で学ぶことにより国際性を伸ばす観点から、「Current Issues in Japanese Economy」「Current Issues in the World Economy」「Economic Growth」「Global Financial Market」「Internationalization of Firms」「Development Policy Studies」等英語による専門科目を数多く設けることとし、加えて、(4) 英語で東アジア経済を学ぶという教育上の特徴を生かす観点から、「Current Issues in the East Asian Economy」「Business Studies in North East Asia」「Economic Integration in ASEAN」等の科目を設けている。

また、「地域性の重視」の観点からは、専門科目において、(1)入門科目として「地域経済創生入門」、専門基礎科目として「地域環境学」「地域産業創出概論」「地域イノベーション政策Ⅰ・Ⅱ」「地域情報論」「地域デザイン論Ⅰ・Ⅱ」、(2)専門応用科目として「環境と地域インフラ」「地域産業論 A (も

のづくり)・B(サービス産業)・C(地域インフラ)」、「知的財産と地域経済」という地域経済創生関連科目を数多く設けるとともに、(3)それぞれの科目においては新潟県の統計データに基づく実情の紹介やそれを踏まえた具体的課題及びその解決策について学修を進める。特に「地域産業論A・B・C」は、本学の立地に根差した地域性等に配慮して選んだ製造業、観光産業等のサービス産業、電力・通信・インフラ等に関連し地域性を有する産業という産業毎に授業科目を設定し、科目の前段ではそれぞれの産業に知見を有する専任教員が産業特性・地域特性等について講義を行い、後段ではその産業に関わり専門的知見を有する外部講師を招いてより実態に即した産業の特徴や課題を明らかにしていく。こうした外部講師の選定に当たって新潟県内の関係者を積極的に活用する。

こうした本学の大きな目的や理念を実現するため、本学部では各科目分野で以下のような特色ある教育方法を採用する。

(改善事項) 国際経済学部 国際経済学科

4. <シラバスの授業科目名が不適切>

シラバスの「授業科目名」が英語で表記されている科目の中に、授業科目名として適切ではないと考えられるものがあるので、修正すること。

(対応)

英語で表記されている科目のうち、本学部専任教員が担当する英語科目において、“Lecture”と表記していたところ、授業内容をより適切に反映した“Lecture for Academic Skills”という授業科目名称に変更する。

「教育課程等の概要」「授業科目の概要」「シラバス」及び「設置の趣旨等を記載した書類」を修正した。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (1 ページ)

新	旧
(1 ページ 4 科目目) 授業科目の名称 <u>Lecture for Academic Skills</u>	(1 ページ 4 科目目) 授業科目の名称 Lecture

(新旧対照表) 授業科目の概要 (1 ページ)

新	旧
(1 ページ 4 科目目) 授業科目の名称 <u>Lecture for Academic Skills</u>	(1 ページ 4 科目目) 授業科目の名称 Lecture

(新旧対照表) シラバス (19 ページ)

新	旧
授業科目名 : <u>Lecture for Academic Skills</u>	授業科目名 : Lecture

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (13 ページ、18 ページ)

新	旧
(13 ページ) (1) 実践的英語能力を高める教育 (略)	(13 ページ) (1) 実践的英語能力を高める教育 (略)

<p>1年次に履修する100番台の科目は、「English Fluency I・II」「Academic English」、「CLIL I」、「<u>Lecture for Academic Skills</u>」が配置される。</p>	<p>1年次に履修する100番台の科目は、「English Fluency I・II」「Academic English」、「CLIL I」、「Lecture」が配置される。</p>
<p>(18 ページ)</p> <p>①基盤科目</p> <p>ア 外国語科目</p> <p>(ア) 英語</p> <p>(略)</p> <p>1年次に履修する100番台の科目は、「English Fluency I・II」「Academic English」、「CLIL I」、「<u>Lecture for Academic Skills</u>」が配置される。</p>	<p>(18 ページ)</p> <p>①基盤科目</p> <p>ア 外国語科目</p> <p>(ア) 英語</p> <p>(略)</p> <p>1年次に履修する100番台の科目は、「English Fluency I・II」「Academic English」、「CLIL I」、「Lecture」が配置される。</p>

(是正事項) 国際経済学部 国際経済学科

5. <海外研修の実施体制等が不明確>

いわゆる教養科目である「基盤科目」に選択科目として配置されている「海外英語研修A(長期)」などの5科目について、どの程度の学生が履修することを想定しているのかを明確にするとともに、これらの科目のうち専任教員が配置されているのは「海外英語研修A(長期)」のみとなっており、他の4科目は兼任教員が担当する計画となっている。このため、想定される履修者数を踏まえた適切な指導体制となっているのか明確にすること。また、各科目に係る海外研修の具体的な内容が不明確であるため明確にするとともに、「成績評価及び単位認定方法」については科目及び海外研修先ごとに、単位設定の妥当性を含めより具体的に説明すること。

(対応)

御指摘に沿って、具体的な内容の説明を追加しつつ、各事項が明確となるように記載する。

(想定される履修者数)

海外研修科目は全学共通科目として実施され、「基盤科目」に選択科目として配置する。これまでの全学の履修者数は、いずれも過去3年間の平均で、「海外英語研修A(長期)」(カナダ)17名、「海外英語研修B(中期)」のうち米国・ベセル大学19名、米国・デュケイン大学11名(平成29年度開始のため2年間の平均)、「海外実地研修」のうちロシア(サンクトペテルブルグ)6名、中国(北京市内)5名、韓国(ソウル・京畿道)4名となっている。これらの履修者の大半は国際交流に高い関心を有する国際地域学部生である。

国際経済学部における海外研修履修者数については、学生全体に占める海外研修履修者の割合において国際地域学部生とほぼ同程度と見込まれ、国際経済学部の学生定員数が国際地域学部の半数であることから、履修者数においては国際地域学部履修者数のほぼ半数程度であると想定している。具体的には、「海外英語研修A(長期)」カナダに8名、「海外英語研修A(長期)」米国6名、「海外英語研修B(中期)」(米国)9名、「海外実地研修」のロシア(サンクトペテルブルグ)、中国(北京市内)、韓国(ソウル・京畿道)それぞれ2～3名程度が履修するものと想定している。

(指導体制)

これまでの本学における海外研修の実施経験及び想定される履修者数(全学部合計で「海外英語研修A(長期)」40名前後、「海外英語研修B(中期)」30名前後、「海外実地研修」のロシア9名前後、中国8名前後、韓国7名前後)を踏まえて、海外研修の各研修先において履修者が適切な指導を受けられるように、「海外英語研修A(長期)」においては専任教員1名及び兼任教員3名の計4名、「海外英語研修B(中期)」においては兼任教員3名、「海外実地研修」においてはロシアに兼任教員2名、中国に同1名、韓国に同1名が指導を担当

する体制とする。

兼任教員はいずれも本学国際地域学部にも所属する専任教員である。このうち海外英語研修 A 及び B を担当する 6 教員（日本人 2 名、外国人 4 名）はいずれも現在本学にて英語科目を担当している教員であり、英語教育及び海外研修に豊富な経験を積んでおり、外国人（4 名）は TESOL（Teaching English to Speakers of Other Languages の略で、他言語話者への英語教育）あるいはそれを含む応用言語学を専門としている。また、日本語も十分な能力を有している。海外実地研修の兼任教員は、ロシア（日本人）及び韓国（韓国人）はそれぞれロシア語、韓国語の語学教育、海外実地研修に豊富な経験を重ねており、中国（日本人）は現代中国社会論の専門家であり中国語に精通し、海外実地研修に豊富な経験を重ねている。このように、配置される担当教員は海外研修に関する専門知識と経験を有している。

これに加えて、各科目担当教員による教育・指導が円滑に行われるようサポートする見地から、本学部では専任教員を海外研修担当委員として任命し、海外研修 5 科目につき各科目 1 名の委員を配置する。委員の任務は、海外英語研修 A を含む海外研修科目に参加する本学部学生を対象に、各科目の担当教員による事前・研修中・事後の指導とは別に、①学生が適切な海外研修科目の選択を行えるよう、各年度初めの学部ガイダンスにおいて各研修の特徴や違い等を分かりやすく説明するガイダンスを行うとともに、研修先の選択等に関する個別の相談に応じる、②科目担当教員に協力して、研修実施先との連絡調整、特に、研修中の不測の事態、緊急時の連絡・調整を行う体制を整え、必要に応じ現地に出向くことを含め各種対応を行う、③研修終了時に提出された本学部学生のレポートのうち、優秀なものを選び、翌年度のガイダンスの際に発表させ、今後受講する学生の参考に供する、④研修後の学生による授業評価等に基づきフォローアップを行い、各研修内容等に関するレビューを行うこととする。さらに、全学的観点から外国語教育センター及び国際交流センターからの海外研修へのサポートを強化するために、全学組織である「海外研修連絡連携委員会」を設けることにより、ノウハウの共有・蓄積を図るとともに、相互に支援協力を行う体制を整備する。

このような趣旨を「設置の趣旨等を記載した書類」に追加的に記載することとした。

（海外研修の具体的内容）

海外研修は事前指導・研修先での学習・事後指導（レポート提出）から構成される。事前指導・事後指導の趣旨・具体的内容については後に示す通りであるが、研修先における具体的研修内容は研修先の特徴を反映して多様であるため、各科目別にその概要を以下のように示す。

	研修期間	研修プログラムの特徴	研修内容
--	------	------------	------

海外英語研修 A(長期) (カナダ・オタワ大学)	5 週間	オタワ大学 Second Language Intensive Program	<ul style="list-style-type: none"> ・英語集中コースにおける、Integrated Skills、English Language Enrichment Seminar の受講 ・カナダ文化に触れるための課外活動への参加 ・現地小学校を訪問し日本文化を伝えるフィールドワークへの参加
海外英語研修 A(長期) (カナダ・セントメアリーズ大学)	5 週間	セントメアリーズ大学 English Language and Canadian Culture Program	<ul style="list-style-type: none"> ・英語集中コースにおける、Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary Development からなる英語トレーニングの受講 ・カナダ文化に触れるための課外活動への参加
海外英語研修 A(長期) (米国・デュケイン大学)	4 週間	デュケイン大学 ESL Program ・ フィールドワーク を含む英語学習 プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ①トレーニング・クラス分けされた各クラスにおいて、Reading/Speaking/Listening/Writing/Note-taking/Discussion の集中的トレーニングの受講 ②引率する科目担当教員の指導の下に、以下のようなフィールドワークを含む英語学習を行う。(1週間) ・Duquesne University の立地するピッツバーグの産業(鉄鋼業)の歴史、都市の再生等に関するゲスト・スピーカーによる各種講義の受講 ・ピッツバーグ市の地域振興局における聞き取り及び再開發現場の視察 ・鉄鋼所の跡地で観光開発を行っている NPO の訪問 ・経済停滞地域に進出する中小企業の訪問と調査からなるフィールドワークへの参加 ・学習成果報告会でのプレゼンテーション
海外英語研修 B(中期) (米国・ベセル大学)	3 週間	ベセル大学 The St. Paul Intercultural Institute のプ ログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの家庭、多様性、教育、法律等をテーマとした英語授業の受講、英語 4 技能 (Reading/Hearing/Speaking/Writing) に関するトレーニングの履修 ・行政庁、州議会、歴史博物館、自然保護センター、移民学習センターなどの現地施設の訪問・調査への参加 ・ベセル大学学生、現地市民との交流への参加

海外実地研修(ロシア)	1週間	科目担当教員の作成するプログラム	引率する科目担当教員の指導の下に、以下のような現地研修を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに即した歴史・文化施設の訪問・調査 ・現地教育施設(初等・中等教育学校等)への訪問 ・日本国在外公館・日本センター等への訪問 ・異文化交流(現地大学生・地域市民との交流)
海外実地研修(中国)	1週間	科目担当教員の作成するプログラム	引率する科目担当教員の指導の下に、以下のような現地研修を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・研修先地域の文化施設・史跡の訪問・調査 ・研修先地域の歴史的街並み・再開発の現状視察 ・研修先地域の経済・ビジネスの発展状況の視察 ・公共交通機関を用いた移動と地元住民との交流
海外実地研修(韓国)	1週間	科目担当教員の作成するプログラム	引率する科目担当教員の指導の下に、以下のような現地研修を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・研修先地域の文化施設・史跡の訪問・調査 ・研修先地域での異文化体験(伝統工芸・食文化) ・研修先地域の日本国在外公館・日本法人への訪問 ・研修先地域での異文化交流(現地大学生・地域市民との交流)

(単位設定の妥当性)

海外研修の単位を取得しようとする履修者には各科目別に以下のような履修を求める。

	単位数	事前指導講義(90分)の受講	研修先受講プログラム(講義数)	現地訪問・調査・討論への参加	研修先での事前・事後学習	事後レポートの作成・報告
海外英語研修A(長期) (カナダ・オタワ大学)	4単位	15回	講義(90分)の講義・週14回・5週間	17時間	要	要
海外英語研修A(長期) (カナダ・セントメアリーズ大学)	4単位	15回	講義(90分)・週13~14回・5週間	13時間	要	要
海外英語研修A(長期)	4単位	15回	講義(70分~100分)・週12~17回・3週間	6~7時間・5日間	要	要

(米国・デュケ イン大学)						
海外英語研修 B(中期) (米国・ベセル 大学)	2 単位	15 回	講義 (75 分) ・ 週 10～12 回・3 週間	26 時間	要	要
海外実地研修 (ロシア)	1 単位	5 回	(指導教員の作 成するプログラ ムによる)	6～7 時間・ 3.5 日間	要	要
海外実地研修 (中国)	1 単位	5 回	(指導教員の作 成するプログラ ムによる)	6～7 時間・ 4 日間	要	要
海外実地研修 (韓国)	1 単位	5 回	(指導教員の作 成するプログラ ムによる)	6～7 時間・ 4 日間	要	要

各科目の単位設定に当たっては、表に示すように、履修者に求める①事前指導講義の受講時間数（半期・週1回・長期及び中期は15週、海外実地研修は5週の授業）、②研修期間・研修先受講プログラムの講義回数・受講時間数、③現地訪問・調査・討論への参加実績・参加時間数、④研修先での事前・事後の学習時間、⑤事後レポートの作成・報告に必要とされる時間・学習密度のそれぞれの要件に基づき設定し、海外英語研修A（長期）を4単位、海外英語研修B（中期）を2単位、海外実地研修（ロシア、中国、韓国）を1単位とした。例えば、海外英語研修Aの米国デュケイン大学の場合、①事前学習（15週の授業）、②集中的英語プログラムの受講（3週間・週12～17回・各回70～100分の授業）に、③地域再生の成功事例とされるピッツバーグ市におけるフィールドワークを含む1週間（1日6～7時間）の実践的英語学習、④そのための準備的学習、及び⑤それを基に日本における同様の取組みの適用可能性等について分析・考察するなど密度の高いレポートの作成に要する学習負担を基にして、4単位を設定する。

（成績評価・単位認定の方法）

成績評価については、事前指導の講義への出席状況、研修先プログラムの受講状況、現地訪問・調査・討論の参加状況、研修終了後に提出を求めるレポートの内容に加え、研修先機関から発行される成績評価書等を基に履修者の研修成果を総合的に判定した上で単位認定を行うこととする。

単位認定に当たって、それぞれの評価項目をどのように加味するかについては、各科目・研修の具体的内容の差異を反映して評価の重点も異なることから、成績評価の基準をシラバスにおいてあらかじめ明記し、履修者に周知する。例えば、海外英語研修A（カナダ）で

は、語学研修を重視することから研修先での研修実績及び評価に比重を置いた成績評価を行うのに対して、海外英語研修 A（米国）では、実践的英語学習である米国・ピッツバーグ市の地域経済の活性化に携わるフィールドワークを含む研修であることから提出されるレポートの評価に一定の重み付けをして成績を評価することになる。

これらについて、「設置の趣旨等を記載した書類」及びシラバスに明記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (38～43 ページ)

新	旧
<p>(38 ページ)</p> <p>(2) 内容</p> <p>海外研修と派遣留学は、本学と協定等を結ぶ海外大学(教育機関)で実施することで、安全管理を徹底する。海外研修は派遣先国の異なる多様なプログラムを提供するに当たり、担当教員による管理を徹底するとともに、本学の<u>外国語教育センター及び国際交流センター</u>と協力してサポート体制を十分に整える。また、各研修が安全かつ円滑に行われるよう、研修期間中の連絡体制を徹底し、万が一の緊急時には早急かつ最善の対応を行えるよう 24 時間の危機管理体制を整備する。</p> <p>①海外研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外英語研修 (3～5 週間程度) <p>上述した本学部の海外研修の目的に鑑み、年 2 回の長期休業(夏季及び春季)において、各研修先に語学学習を目的とした学生を派遣する。英語圏において、海外研修の主旨に合致し、期間、内容そして安全管理体制が適切な大学(もしくは教育機関)を選定する。</p> <p><u>海外研修は事前指導・研修先での学習・事後指導(レポート提出)から構成される。</u> <u>事前指導・事後指導の趣旨・具体的内容については後に示す通りであるが、研修先における具体的研修内容は研修先の特徴を反</u></p>	<p>(36 ページ)</p> <p>(2) 内容</p> <p>海外研修と派遣留学は、本学と協定等を結ぶ海外大学(教育機関)で実施することで、安全管理を徹底する。海外研修は派遣先国の異なる多様なプログラムを提供するに当たり、担当教員による管理を徹底するとともに、本学の国際交流センターと協力してサポート体制を十分に整える。また、各研修が安全かつ円滑に行われるよう、研修期間中の連絡体制を徹底し、万が一の緊急時には早急かつ最善の対応を行えるよう 24 時間の危機管理体制を整備する。</p> <p>①海外研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外英語研修 (3～5 週間程度) <p>上述した本学部の海外研修の目的に鑑み、年 2 回の長期休業(夏季及び春季)において、各研修先に語学学習を目的とした学生を派遣する。英語圏において、海外研修の主旨に合致し、期間、内容そして安全管理体制が適切な大学(もしくは教育機関)を選定する。</p>

映して多様であるため、各科目別にその概要を以下のように示す。

	研修期間	研修プログラムの特徴	研修内容
海外英語研修A(長期) (カナダ・オタワ大学)※	5週間	オタワ大学 Second Language Intensive Program	・英語集中コースにおける、Integrated Skills、English Language Enrichment Seminarの受講 ・カナダ文化に触れるための課外活動への参加 ・現地小学校を訪問し日本文化を伝えるフィールドワークへの参加
海外英語研修A(長期) (カナダ・セントメアリーズ大学)※	5週間	セントメアリーズ大学 English Language and Canadian Culture Program	・英語集中コースにおける、Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary Developmentからなる英語トレーニングの受講 ・カナダ文化に触れるための課外活動への参加
海外英語研修A(長期) (米国・デュケイン大学)	4週間	デュケイン大学 ESL Program フィールドワークを含む英語学習プログラム	①トレーニング・クラス分けされた各クラスにおいて、Reading/Speaking/Listening/Writing/Notetaking/Discussionの集中的トレーニングの受講する。(3週間) ②引率する科目担当教員の指導の下に、以下のようなフィールドワークを含む英語学習を行う。(1週間) ・Duquesne Universityの立地するピッツバーグの産業(鉄鋼業)の歴史、都市の再生等に関するゲストスピーカーによる各種講義の受講 ・ピッツバーグ市の地域振興局における聞き取り及び再開発現場の視察 ・鉄鋼所の跡地で観光開発を行っているNPOの訪問 ・経済停滞地域に進出する中小企業の訪問と調査からなるフィールドワークへの参加 ・学習成果報告会でのグループによるプレゼンテーション
海外英語研修B(中期) (米国・ベセル大学)	3週間	ベセル大学 The St. Paul Intercultural Instituteのプログラム	・アメリカの家庭、多様性、教育、法律等をテーマとした英語授業の受講、英語4技能(Reading/Hearing/Speaking/Writing)に関するトレーニングの履修 ・行政庁、州議会、歴史博物館、自然保護センター、移民学習センター等の現地施設の訪問・調査への参加 ・ベセル大学学生、現地市民との交流への参加

※(隔年実施)

・海外実地研修(1週間程度)

グローバル経済への理解を深めるために、ロシア、中国、韓国で実地研修を実施する。

各派遣先国別にその概要を以下のように示す。

	研修期間	研修プログラムの特徴	研修内容
海外実地研修(ロシア)	1週間	科目担当教員の作成するプログラム (サンクトペテルブルグ)	引率する科目担当教員の指導の下に、以下のような現地研修を行う。 ・テーマに即した歴史・文化施設の訪問・調査 ・現地教育施設(初等・中等教育学校等)への訪問 ・日本国在外公館・日本センター等への訪問 ・異文化交流(現地大学生・地域市民との交流)
海外実地研修(中国)	1週間	科目担当教員の作成するプログラム (北京・上海)	引率する科目担当教員の指導の下に、以下のような現地研修を行う。 ・研修先地域の文化施設・史跡の訪問・調査 ・研修先地域の歴史的街並み・再開発の現状視察 ・研修先地域の経済・ビジネスの発展状況の視察 ・公共交通機関を用いた移動と地元住民との交流
海外実地研修(韓国)	1週間	科目担当教員の作成するプログラム (ソウル・京畿道)	引率する科目担当教員の指導の下に、以下のような現地研修を行う。 ・研修先地域の文化施設・史跡の訪問・調査 ・研修先地域での異文化体験(伝統工芸・食文化) ・研修先地域の日本国在外公館・日本法人への訪問 ・研修先地域での異文化交流(現地大学生・地域市民との交流)

(39 ページ)

ア 指導体制

海外英語研修及び海外実地研修については、引率教員を派遣する。また、本学の専任教員が現地機関との間で研修内容に関する

	国	派遣先
海外英語研修A(長期 5週間)	カナダ	オタワ大学/セントメアリーズ大学(隔年)
海外英語研修A(長期 4週間)	米国	デュケイン大学
海外英語研修B(中期 3週間)	米国	ベセル大学

・海外実地研修(1週間程度)

グローバル経済への理解を深めるために、米国、ロシア、中国、韓国で実地研修を実施する。

	国	研修地
海外実地研修(1週間～10日間)	ロシア	サンクトペテルブルグ・ソフィア
	中国	北京・上海
	韓国	ソウル

(37 ページ)

ア 指導体制

海外英語研修及び海外実地研修については、引率教員を派遣する。また、本学の専任教員が現地機関との間で研修内容に関する

<p>調整を行い、研修先の選定、研修プログラムの企画、実施、成績評価までの一連の作業は本学の責任で行う。</p> <p><u>海外研修科目は全学共通科目として実施され、「基盤科目」に選択科目として配置する。これまでの全学の履修者数は、いずれも過去3年間の平均で、「海外英語研修 A（長期）」(カナダ) 17名、「海外英語研修 B（中期）」のうち米国・ベセル大学 19名、米国・デューク大学 11名（平成29年度開始のため2年間の平均）、「海外実地研修」のうちロシア（サンクトペテルブルグ）6名、中国（北京市内）5名、韓国（ソウル・京畿道）4名となっている。これらの履修者の大半は国際交流に高い関心を有する国際地域学部生である。</u></p> <p><u>国際経済学部における海外研修履修者数については、学生全体に占める海外研修履修者の割合において国際地域学部生とほぼ同程度と見込まれ、国際経済学部の学生定員数が国際地域学部の半数であることから、履修者数においては国際地域学部履修者数のほぼ半数程度であると想定している。具体的には、「海外英語研修 A（長期）」カナダに8名、「海外英語研修 A（長期）」米国6名、「海外英語研修 B（中期）」(米国) 9名、「海外実地研修」のロシア（サンクトペテルブルグ）、中国（北京市内）、韓国（ソウル・京畿道）それぞれ2～3名程度が履修するものと想定している。</u></p> <p><u>これまでの本学における海外研修の実施経験及び想定される履修者数（全学部合計で「海外英語研修 A（長期）」40名前後、「海外英語研修 B（中期）」30名前後、「海外実地研修」のロシア9名前後、中国8名前後、韓国7名前後）を踏まえて、海外研修の各</u></p>	<p>調整を行い、研修先の選定、研修プログラムの企画、実施、成績評価までの一連の作業は本学の責任で行う。</p>
--	--

研修先において履修者が適切な指導を受けられるように、「海外英語研修 A（長期）」においては専任教員 1 名及び兼任教員 3 名の計 4 名、「海外英語研修 B（中期）」においては兼任教員 3 名、「海外実地研修」においてはロシアに兼任教員 2 名、中国に同 1 名、韓国に同 1 名が指導を担当する体制とする。

兼任教員はいずれも本学国際地域学部に所属する専任教員である。このうち海外英語研修 A 及び B を担当する 6 教員（日本人 2 名、外国人 4 名）はいずれも現在本学にて英語科目を担当している教員であり、英語教育及び海外研修に豊富な経験を積んでおり、外国人（4 名）は TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages の略で、他言語話者への英語教育) あるいはそれを含む応用言語学を専門としている。また、日本語も十分な能力を有している。海外実地研修の兼任教員は、ロシア（日本人）及び韓国（韓国人）はそれぞれロシア語、韓国語の語学教育、海外実地研修に豊富な経験を重ねており、中国（日本人）は現代中国社会論の専門家で中国語に精通し、海外実地研修に豊富な経験を重ねている。このように、配置される担当教員は海外研修に関する専門知識と経験を有している。

これに加えて、各科目担当教員による教育・指導が円滑に行われるようサポートする見地から、本学部では専任教員を海外研修担当委員として任命し、海外研修 5 科目につき各科目 1 名の委員を配置する。委員の任務は、海外英語研修 A を含む海外研修科目に参加する本学部学生を対象に、各科目の担当教員による事前・研修中・事後の指導とは別に、①学生が適切な海外研修科目の選択を行えるよう、各年度初めの学部

<p>ガイダンスにおいて各研修の特徴や違い等を分かりやすく説明するガイダンスを行うとともに、研修先の選択等に関する個別の相談に応じる、②科目担当教員に協力して、研修実施先との連絡調整、特に、研修中の不測の事態、緊急時の連絡・調整を行う体制を整え、必要に応じ現地に出向くことを含め各種対応を行う、③研修終了時に提出された本学部学生のレポートのうち、優秀なものを選び、翌年度のガイダンスの際に発表させ、今後受講する学生の参考に供する、④研修後の学生による授業評価等に基づきフォローアップを行い、各研修内容等に関するレビューを行うこととする。さらに、全学的観点から外国語教育センター及び国際交流センターからの海外研修へのサポートを強化するために、全学組織である「海外研修連絡連携委員会」を設けることにより、ノウハウの共有・蓄積を図るとともに、相互に支援協力を行う体制を整備する。</p>	
<p>(41 ページ)</p> <p>エ 成績評価及び単位認定方法</p> <p>海外研修の単位を取得しようとする履修者には各科目別に以下のような履修を求める。</p>	<p>(37 ページ)</p> <p>エ 成績評価及び単位認定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外英語研修 <p>研修先の大学より送付される成績評価に基づいて、各研修の担当教員が、学生の事前指導への出席や研修中の参加度、研修後に提出するレポートや事後報告会等の達成度をもとに、総合的に評価を行う。研修の期間や内容により、2単位もしくは4単位を付与する。(A(長期):4単位、B(中期):2単位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外実地研修 <p>各研修の担当教員が、学生の事前指導への出席、研修への参加度、研修後に提出するレポートや事後報告会等の達成度をもとに、総合的に評価を行う。(1単位)</p>

	単位数	事前指導講義(90分)の受講	研修先受講プログラム(講義数)	現地訪問・調査・討論への参加	研修先での事前・事後学習	事後レポートの作成・報告
海外英語研修A(長期) (カナダ・オタワ大学)	4単位	15回	講義(90分)・週14回・5週間	17時間	要	要
海外英語研修A(長期) (カナダ・セントメアリーズ大学)	4単位	15回	講義(90分)・週13~14回・5週間	13時間	要	要
海外英語研修A(長期) (米国・デュケイン大学)	4単位	15回	講義(70分~100分)・週12~17回・3週間	6~7時間・5日間	要	要
海外英語研修B(中期) (米国・ベセル大学)	2単位	15回	講義(75分)・週10~12回・3週間	26時間	要	要
海外実地研修(ロシア)	1単位	5回	(指導教員の作成するプログラムによる)	6~7時間・3.5日間	要	要
海外実地研修(中国)	1単位	5回	(指導教員の作成するプログラムによる)	6~7時間・4日間	要	要
海外実地研修(韓国)	1単位	5回	(指導教員の作成するプログラムによる)	6~7時間・4日間	要	要

各科目の単位設定に当たっては、表に示すように、履修者に求める①事前指導講義の受講時間数(半期・週1回・長期及び中期は15週、海外実地研修は5週の授業)、②研修期間・研修先受講プログラムの講義回数・受講時間数、③現地訪問・調査・討論への参加実績・参加時間数、④研修先での事前・事後の学習時間、⑤事後レポートの作成・報告に必要とされる時間・学習密度のそれぞれの要件に基づき設定し、海外英語研修A(長期)を4単位、海外英語研修B(中期)を2単位、海外実地研修(ロシア、中国、韓国)を1単位とした。例えば、海外英語研修Aの米国デュケイン大学の場合、①事前学習(15週の授業)、②集中的英語プログラムの受講(3週間・週12~17回・各回70~100分の授業)に、③地域再生の成功事例とされるピッツバーグ市におけるフィールドワークを含む1週間(1日6~7時間)の実践的英語学習、④そのための準備的学習、及び⑤それを基に日本における同様の取組みの適用可能性等について分析・考察するなど密度の高いレポートの作成に要する学習負担を基にして、4単位を設定する。

<p><u>成績評価については、事前指導の講義への出席状況、研修先プログラムの受講状況、現地訪問・調査・討論の参加状況、研修終了後に提出を求めるレポートの内容に加え、研修先機関から発行される成績評価書等を基に履修者の研修成果を総合的に判定した上で単位認定を行うこととする。</u></p> <p><u>単位認定に当たって、それぞれの評価項目をどのように加味するかについては、各科目・研修の具体的内容の差異を反映して評価の重点も異なることから、成績評価の基準をシラバスにおいてあらかじめ明記し、履修者に周知する。例えば、海外英語研修 A（カナダ）では、語学研修を重視することから研修先での研修実績及び評価に比重を置いた成績評価を行うのに対して、海外英語研修 A（米国）では、実践的英語学習である米国・ピッツバーグ市の地域経済の活性化に携わるフィールドワークを含む研修であることから提出されるレポートの評価に一定の重み付けをして成績を評価することになる。</u></p>	
---	--

(新旧対照表) シラバス (45～47 ページ)

新	旧
<p>(別紙資料3【新】参照)</p> <p>授業科目名： <u>海外英語研修 A（長期）の「授業目標」</u> <u>「授業計画（授業スケジュールと内容）」</u> <u>「事前事後学習（学習課題）」</u> <u>「成績評価方法」の詳細を記載</u></p>	<p>(別紙資料3【旧】参照)</p> <p>授業科目名： 海外英語研修 A（長期）</p>

6. <演習科目の妥当性が不明確>

必修科目である「入門演習Ⅰ・Ⅱ」や「専門演習Ⅰ～Ⅳ」は、履修を希望する教員に偏りが生じることが想定されるが、どのように学生の履修希望を調整するのかを明確にすること。また、各科目の単位設定の妥当性が不明確なため、考え方を明確にするか、必要に応じて修正すること。特に「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)」における卒業論文指導の単位設定の関係性を明らかにすること。なお、科目間でシラバスの「授業計画」の記載内容に偏りがあるものや、授業内で「教員による個別指導」を行う旨の記載があり、授業内で個別指導を行うことが適切なのか疑義があるため、妥当性を明確にするか修正すること。

(対応)

「入門演習Ⅰ・Ⅱ」については、必修科目として入学当初に開講することから、担当専任教員6名が学生各15名を担当することとし、原則として学籍番号に従い割り振る。「専門演習Ⅰ～Ⅳ」については、原則として同一の教員の演習を続けて履修することとし、3年次の専門演習Ⅰの受講に先立ち、各演習の受入履修者数の上限を示した上で2年次の後期に、学生から履修希望先の提出を求め、学生の履修希望先と受入先とが適合するように配慮しつつ受講先を決定する。履修希望先と受入先との適合に際しては、原則として第1希望から第3希望までの3段階で行い、それぞれの段階において希望先演習担当教員との面接により選考する。この場合、学生の円滑な所属選考が行われるように、教務担当教員と教務担当事務が調整に当たる。この旨、「設置の趣旨等を記載した書類」に明記した。

「専門演習Ⅰ～Ⅲ」については、専門科目と同様の授業時間数であること及び専門科目と同等あるいはそれ以上の事前準備・事後のフォローアップのための学習を求めることから、専門科目と同等の単位数(2単位)とする。

「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)」においては、履修終了時に卒業論文の提出を義務付け、卒業論文の作成を課題とした演習指導を行う。他の専門科目と比べ学生に対し事前準備・事後のフォローアップのための学習を多く求めることになるが、他の専門科目と同様の授業時間数であること等を勘案して、当初設定していた4単位を改め、専門演習Ⅰ～Ⅲと同様の2単位とする。これに伴い卒業のための履修条件等関係する部分を修正する。修正内容は「教育課程等の概要」、「設置の趣旨等を記載した書類」及びシラバスに反映する。

「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)」では、卒業論文について、中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。このため、この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、卒業論文の構成・展開に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。この旨を「授業科目の概要」に明記した。

また、この趣旨を明確にするため、「シラバス」において、「卒論中間発表・質疑応答、講

評」は「卒論中間発表・指導」、「卒論個別指導」は「卒論の構成・展開の指導」と修正した。この場合、専門演習Ⅳでは、専門演習Ⅰ～Ⅲにおいて履修した内容を引き継ぎ、それを基礎に内容をさらに発展させて、論文作成に向けた指導が行われることから、専門演習Ⅳの各回の演習で取り上げる具体的内容は、専門演習Ⅰ～Ⅲにおいて履修した内容を基礎としつつも、年毎に、また受講者の構成や関心の違いによって変化するものと予想される。このため、専門演習Ⅳの各シラバスの「授業計画」においては、演習の具体的内容別でなく、演習で行われる指導の段階とスケジュールを示すことによって、受講者が受ける指導の位置付けが明確になるようにした。

なお、「専門演習Ⅲ」の一部の授業計画の記載内容が明確になるよう修正した。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (5 ページ)

新	旧
(5 ページ) 授業科目「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)」 の単位数を <u>2 単位</u> に変更。	(5 ページ) 授業科目「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)」 の単位数 (4 単位)
卒業要件及び履修方法 ○基盤科目 (40 単位以上) (略) ○専門科目 (76 単位以上) ・入門科目 6 単位以上 ・専門基礎科目 <u>34 単位</u> 以上 (コース共通 科目から <u>14 単位</u> 以上、コース別専門基 礎科目から 8 単位以上 ・専門応用科目 24 単位以上 (コース共通 科目から 8 単位以上、コース別専門基 礎科目から 6 単位以上 ・演習科目 <u>12 単位</u> (全て必修科目、専門 演習は卒業論文を含む)	卒業要件及び履修方法 ○基盤科目 (40 単位以上) (略) ○専門科目 (76 単位以上) ・入門科目 6 単位以上 ・専門基礎科目 32 単位以上 (コース共通 科目から 12 単位以上、コース別専門基 礎科目から 8 単位以上 ・専門応用科目 24 単位以上 (コース共通 科目から 8 単位以上、コース別専門基 礎科目から 6 単位以上 ・演習科目 14 単位 (全て必修科目、専門 演習は卒業論文を含む)

(新旧対照表) 授業科目の概要 (22 ページ)

新	旧
科目名：専門演習Ⅲ (講義等の内容) 専門演習Ⅰ・Ⅱで培われた分析能力の一 層の向上を図り、具体的な研究テーマを定	科目名：専門演習Ⅲ (講義等の内容) 専門演習Ⅰ・Ⅱで培われた分析能力の一 層の向上を図り、具体的な研究テーマを定

<p>めて卒業論文の執筆準備を進める。卒業論文のテーマや採用する主要な分析手法について、演習の場での発表や討論、教員による<u>指導</u>を通じて、内容を固めていく。</p>	<p>めて卒業論文の執筆準備を進める。卒業論文のテーマや採用する主要な分析手法について、演習の場での発表や討論、教員による個別指導を通じて、内容を固めていく。</p>
<p>科目名：専門演習Ⅳ(卒業論文を含む) (講義等の内容)</p> <p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が<u>指導</u>を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開に関して教員の指導</u>を受けて卒業論文を完結する。</p>	<p>科目名：専門演習Ⅳ(卒業論文を含む) (講義等の内容)</p> <p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。</p>

(新旧対照表) シラバス

新	旧
<p>(別紙資料4【新】参照) 担当教員：天龍洋平 「<u>専門演習Ⅲ</u>」の<u>授業計画の記載を修正</u>。</p>	<p>(別紙資料4【旧】参照) 担当教員：天龍洋平 「<u>専門演習Ⅲ</u>」</p>
<p>(別紙資料5【新】参照) 「<u>専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)</u>」 担当教員のシラバスについて以下を修正。 ・単位数の記載 「単位数：<u>2</u>」 ・<u>授業科目の概要の記載を修正</u> ・<u>授業計画(授業スケジュールと内容)の記載を修正</u> ・<u>事前事後学習(学習課題)の記載を修正</u></p>	<p>(別紙資料5【旧】) 「<u>専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)</u>」 担当教員のシラバス ・単位数欄の記載 「単位数：<u>4</u>」 ・授業科目の概要 ・授業計画(授業スケジュールと内容) ・事前事後学習(学習課題)</p>

(新旧対照表) 学則

新	旧
<p>学則別表1における「<u>専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)の4単位を2単位へ変更</u>」及び「<u>卒業要件及び履修方法</u>」の記載を<u>変更</u> (「教育課程等の概要 卒業要件及び履修</p>	<p>学則別表1における「<u>専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)4単位</u>」「<u>卒業要件及び履修方法</u>」の記載</p>

方法」にて記載の変更の通り)	
----------------	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (17 ページ、26～28 ページ)

新	旧
<p>(17 ページ)</p> <p>(8) 実践的問題解決能力を高める専門教育 「問題解決能力を高める科目」として、 ・・・(略)・・・ 3年次における専門科目の「専門演習・・・(略)・・・ (第2パラグラフ6行目)</p> <p>要な分析手法について<u>指導</u>を行う。また、「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)では4年次後期において卒業論文執筆作業の進捗管理と内容・まとめ方等についての具体的な助言を中心とした<u>指導</u>を行う。</p> <p>専任教員のうち16名が「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)」を担当する。履修者はコースとは関係なく教員を選択でき、希望する学生の中から演習の指導教員が志望理由等を確認の上、履修者を決定する。必修科目であるため、学生全員が<u>適切に履修</u>できるよう学部全体として配慮する。<u>履修者決定の具体的方法は、履修指導方法(26～27 ページ)</u>で示す。</p> <p>なお、3年次の「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)」は、それぞれ同一の担当教員の受講のみを単位として認める。ただし、4年次進級において、受入れ先教員の同意が得られれば、異なる担当教員の演習への変更を認める。「<u>専門演習Ⅳ</u>」における<u>指導に基づき作成された卒業論文</u>は、学部全体の場でのプレゼンテーションの機会を設けるなど、卒業時の到達度について当該学生の指導教員だけでなく</p>	<p>(16 ページ)</p> <p>(8) 実践的問題解決能力を高める専門教育 「問題解決能力を高める科目」として、 ・・・(略)・・・ 3年次における専門科目の「専門演習・・・(略)・・・ (17 ページ5行目)</p> <p>要な分析手法について個別指導を行う。また、「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)では4年次後期において卒業論文執筆作業の進捗管理と内容・まとめ方等についての具体的な助言を中心とした個別指導を行う。</p> <p>専任教員のうち16名が「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)」を担当する。履修者はコースとは関係なく教員を選択でき、希望する学生の中から演習の指導教員が志望理由等を確認の上、履修者を決定する。必修科目であるため、学生全員が履修できるよう学部全体として配慮する。なお、3年次の「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「専門演習Ⅲ」「専門演習Ⅳ(卒業論文を含む)」は、それぞれ同一の担当教員の受講のみを単位として認める。ただし、4年次進級において、受入れ先教員の同意が得られれば、異なる担当教員の演習への変更を認める。卒業論文として単位を認められたものについては、学部全体の場でのプレゼンテーションの機会を設けるなど、卒業時の到達度について当該学生の指導教員だけでなく他の教員や学生が認識を共有できるよう工夫する。</p>

<p>他の教員や学生が認識を共有できるよう工夫する。</p> <p>(26 ページ)</p> <p>(2) 履修指導方法</p> <p>(略)</p> <p>特に指導が重要な 1 年次については、「入門演習 I・II」を設け、大学生活の円滑な開始を促すとともに、科目履修の円滑化を図る。入門演習は、各教員の担当する学生数は 15 名程度とし、少人数クラスにすることで指導・助言を円滑に進める。<u>「入門演習 I・II」については、必修科目として入学当初に開講することから、担当専任教員 6 名が学生各 15 名を担当することとし、原則として学籍番号に従い割り振る。</u></p> <p>2 年次当初の「国際経済コース」と「地域・・・(略)・・・</p> <p>う、「入門演習」等の場を通じ丁寧な指導を行う。</p> <p>科目配置、担当専任教員数等を総合的に勘案し、・・・(略)・・・</p> <p>その上で、コースの人数に著しい偏りが生じた場合には、必要に応じ学生の希望や成績を総合的に判断し所要の対応を図る。</p> <p><u>「専門演習 I～IV」については、原則として同一の教員の演習を続けて履修することとし、3 年次の専門演習 I の受講に先立ち、各演習の受入履修者数の上限を示した上で 2 年次の後期に、学生から履修希望先の提出を求め、学生の履修希望先と受入先とが適合するように配慮しつつ受講先を決定する。履修希望先と受入先との適合に際しては、原則として第 1 希望から第 3 希望までの 3 段階で行い、それぞれの段階において希望先演習担当教員との面接により選考する。この場合、学生の円滑な所属選考</u></p>	<p>(25 ページ)</p> <p>(2) 履修指導方法</p> <p>(略)</p> <p>特に指導が重要な 1 年次については、「入門演習 I・II」を設け、大学生活の円滑な開始を促すとともに、科目履修の円滑化を図る。入門演習は、各教員の担当する学生数は 15 名程度とし、少人数クラスにすることで指導・助言を円滑に進める。</p> <p>2 年次当初の「国際経済コース」と「地域・・・(略)・・・</p> <p>う、「入門演習」等の場を通じ丁寧な指導を行う。</p> <p>科目配置、担当専任教員数等を総合的に勘案し、・・・(略)・・・</p> <p>その上で、コースの人数に著しい偏りが生じた場合には、必要に応じ学生の希望や成績を総合的に判断し所要の対応を図る。</p>
--	---

が行われるように、教務担当教員と教務担当事務が調整に当たる。

「専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）」では、卒業論文について、中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。このため、この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、卒業論文の構成・展開に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。

(27 ページ)

2 卒業要件及び自由科目の設定

本学部では、卒業に必要な単位を 128 単位とする。うち、必修科目 20 単位、選択必修科目 74 単位以上の修得を必要とする。

(略)

科目区分ごとの要修得単位数 (表)

科目区分		科目数	要件単位数	
(略)				
専門科目	専門基礎	コース 共通 14	14	34
		コース 別 15	8	
	専門応用	コース 共通 8	8	24
		コース 別 13	6	
演習 ^(※)	6	12	12	

(※) 演習科目 (「入門演習Ⅰ・Ⅱ」及び「専門演習Ⅰ～Ⅳ」) については、専門科目と同様の授業時間数であること及び専門科目と同等あるいはそれ以上の事前準備・事後のフォローアップのための学習を求めることから、専門科目と同等の単位数 (2 単位) とする。

○基盤科目 (40 単位以上)

(26 ページ)

2 卒業要件及び自由科目の設定

本学部では、卒業に必要な単位を 128 単位とする。うち、必修科目 22 単位、選択必修科目 72 単位以上の修得を必要とする。

(略)

科目区分ごとの要修得単位数 (表)

科目区分		科目数	要件単位数	
(略)				
専門科目	専門基礎	コース 共通 14	12	32
		コース 別 15	8	
	専門応用	コース 共通 8	8	24
		コース 別 13	6	
演習	6	14	14	

○基盤科目 (40 単位以上)

(略)

○専門科目 (76 単位以上)

- ・ 入門科目 6 単位以上
- ・ 専門基礎科目 32 単位以上 (コース共通科目から 12 単位以上、コース別専門基礎科目から 8 単位以上)
- ・ 専門応用科目 24 単位以上 (コース共通

<p>(略)</p> <p>○専門科目 (76 単位以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入門科目 6 単位以上 ・ 専門基礎科目 <u>34 単位</u>以上 (コース共通科目から <u>14 単位</u>以上、コース別専門基礎科目から 8 単位以上) ・ 専門応用科目 24 単位以上 (コース共通科目から 8 単位以上、コース別専門基礎科目から 6 単位以上) ・ 演習科目 <u>12 単位</u> (全て必修科目、専門演習は卒業論文を含む) 	<p>科目から 8 単位以上、コース別専門基礎科目から 6 単位以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習科目 14 単位 (全て必修科目、専門演習は卒業論文を含む)
---	---

(是正事項) 国際経済学部 国際経済学科

7. <施設・設備が不明確>

図面上、学生自習室が確認できないため、明確にすること。また、統計データを扱うソフトウェアのライセンスが整備される計画となっているのかを説明すること。

(対応)

自習室については、全学共通施設として既に、一般用自習室を1号館B棟2階に105.12㎡(50席)設けており、授業時間以外に自習用としても利用できる語学学習用CALL教室(1号館A・B棟に計3室247.74㎡(96席))及び情報処理学習用コンピュータ演習室(1号館A棟に184.82㎡(66席))を確保している。さらに2022年度から利用を開始する予定の新校舎棟の1・2階に自習を含む多目的用途に対応する学生ラウンジ(365.912㎡、150席程度を予定)を設けることとしている。

統計データを扱うソフトウェアについては、表計算ソフト(Excel)・統計解析ソフト(Stata)をコンピュータ演習室に備え付けのコンピュータ50台に50ライセンス確保しており、コンピュータ演習室にて授業で使用する他、自習する際にも利用できるよう整備済みである。なお、上述のコンピュータは、インターネットに接続されており、R(アール)等のオープンライセンスのソフトも利用できる環境にある。

これらについて、「設置の趣旨等を記載した書類」に明記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (26ページ、31～32ページ)

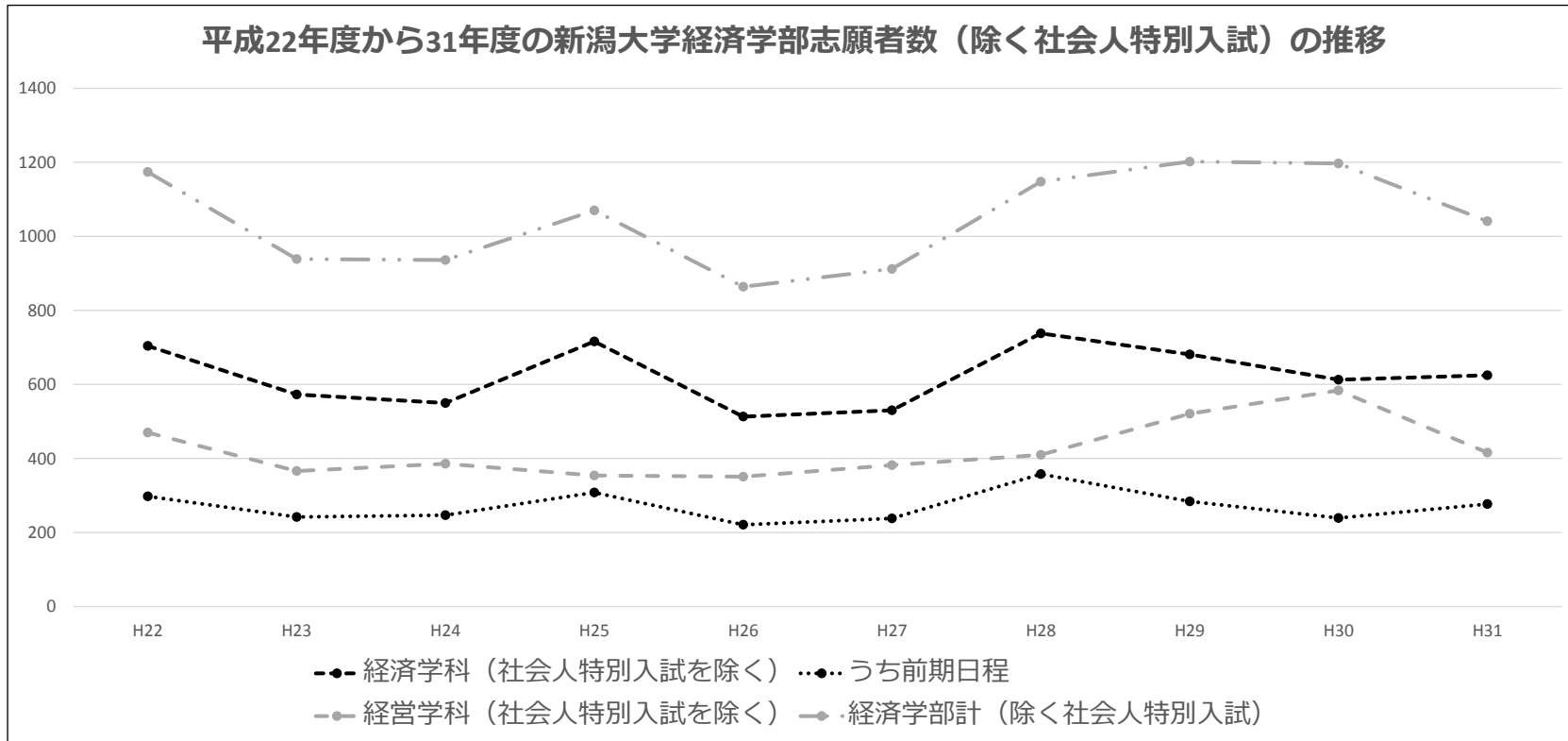
新	旧
(31ページ) 2 校舎等施設の整備計画 学部の設置に伴う講義室及び教員研究室等については、本学キャンパス内に新校舎棟(延床面積6,100㎡超)を設ける。新校舎棟は老朽化した現3号館を解体し、本学部用の機能を合わせた施設整備を行う形で新築する。大学全体の総収容定員が増となることから、新校舎棟には、新たに講義室や演習室等を設けるとともに、22室の研究室を設け、本学部の専任教員全員の個別研究室を確保する。また、既設図書館に加え本学部で整備する蔵書を収容し、閲覧席やラーニングcommonsを備えた図書館(図書	(29ページ) 2 校舎等施設の整備計画 学部の設置に伴う講義室及び教員研究室等については、本学キャンパス内に新校舎棟(延床面積6,100㎡超)を設ける。新校舎棟は老朽化した現3号館を解体し、本学部用の機能を合わせた施設整備を行う形で新築する。大学全体の総収容定員が増となることから、新校舎棟には、新たに講義室や演習室等を設けるとともに、22室の研究室を設け、本学部の専任教員全員の個別研究室を確保する。また、既設図書館に加え本学部で整備する蔵書を収容し、閲覧席やラーニングcommonsを備えた図書館(図書

<p>館別室)を新校舎棟の中に新設する。自習室については、全学共通施設として既に、一般用自習室を1号館 B 棟2階に 105.12 m² (50 席) 設けており、授業時間以外に自習用としても利用できる語学学習用 CALL 教室 (1号館 A・B 棟に計3室 247.74 m² (96 席)) 及び情報処理学習用コンピュータ演習室 (1号館 A 棟に 184.82 m² (66 席)) 確保している。さらに 2022 年度から利用を開始する予定の新校舎棟の 1・2階に自習を含む多目的用途に対応する学生ラウンジ (365.912 m²、150 席程度を予定) を設けることとしている。新校舎棟の建築については、設置団体である新潟県からの施設整備に係る支援に基づき進める。</p> <p>新校舎棟の主な施設概要 (略)</p> <p>なお、情報処理学習用コンピュータ演習室については、統計データを扱うソフトウェアとして表計算ソフト (Excel)・統計解析ソフト (Stata) を備え付けのコンピュータ 50 台に 50 ライセンス確保しており、コンピュータ演習室にて授業で使用する他、自習する際にも利用できるよう整備済みである。なお、上述のコンピュータ (50 台) は、インターネットに接続されており、R (アール) 等のオープンライセンスのソフトも利用できる環境にある。</p>	<p>館別室)を新校舎棟の中に新設する。新校舎棟の建築については、設置団体である新潟県からの施設整備に係る支援に基づき進める。</p> <p>新校舎棟の主な施設概要 (略)</p>
<p>(26 ページ)</p> <p>③情報・データ分析科目 (専門科目のうち) (略)</p> <p>また、情報・データの処理・分析能力を高めるために、専門基礎科目として設置する「データサイエンスの基礎」「データ処理の基礎」の履修により基礎的な知識を修得し、</p>	<p>(24～25 ページ)</p> <p>③情報・データ分析科目 (専門科目のうち) (略)</p> <p>また、情報・データの処理・分析能力を高めるために、専門基礎科目として設置する「データサイエンスの基礎」「データ処理の基礎」の履修により基礎的な知識を修得し、</p>

<p>専門応用科目として設置する「データ処理の応用」においてデータ処理の応用による実践的な分析手法に関するリテラシーを修得するよう教育を行う。</p> <p><u>統計データを扱うソフトウェアについては、表計算ソフト (Excel) ・統計解析ソフト (Stata) をコンピュータ演習室に備え付けのコンピュータ 50 台に 50 ライセンス確保しており、コンピュータ演習室にて授業で使用する他、自習する際にも利用できるよう整備済みである。なお、上述のコンピュータは、インターネットに接続されており、R (アール) 等のオープンライセンスのソフトも利用できる環境にある。</u></p>	<p>専門応用科目として設置する「データ処理の応用」においてデータ処理の応用による実践的な分析手法に関するリテラシーを修得するよう教育を行う。</p>
---	---

○ 新潟大学経済学部志願者数及び新潟県高校卒業者数(平成22年度～31年度)

		入学定員	志願者数									
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
経済学部	経済学科(社会人特別入試を除く)	160	704	573	550	716	513	530	738	681	613	625
	うち前期日程	100	298	242	247	308	221	238	358	284	239	277
	経営学科(社会人特別入試を除く)	105	470	366	386	354	351	382	410	521	584	416
経済学部計(除く社会人特別入試)		265	1,174	939	936	1,070	864	912	1,148	1,202	1,197	1,041



類似する大学・学部等の志願状況

大学	学部	学科名	志願者数					志願/実質倍率										備考
			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		
								志願倍率	実質倍率	志願倍率	実質倍率	志願倍率	実質倍率	志願倍率	実質倍率	志願倍率	実質倍率	
新潟大学	経済学部	経済学科	238	358	284	239	277	2.38	1.95	3.58	3.05	2.84	2.37	2.39	2.09	2.77	2.49	前期一般入試(昼)
金沢大学	人間社会学域 経済学類		253	255	317	238	261	1.69	1.57	1.70	1.61	2.11	1.95	2.16	1.99	2.37	2.19	前期日程
首都大学東京	経済経営学部	経済経営学科	=	-	-	437	443	=	=	-	-	-	-	3.97	3.50	4.03	3.66	前期一般入試
青山学院大学	経済学部	経済学科	3,862	4,397	4,707	5,530	5,377	16.79	N/A	19.12	6.65	19.61	8.18	23.04	10.15	20.68	8.41	個別A・B(2016までは個別日程)
	国際政治経済学部	国際経済学科	717	753	670	851	652	14.34	N/A	15.06	6.18	11.17	5.80	12.16	9.16	9.31	5.07	個別日程
学習院大学	経済学部	経済学科	1,767	3,005	2,766	3,011	2,422	N/A	N/A	N/A	4.11	16.27	3.90	20.07	7.27	16.15	5.01	コア(2017までは一般入試)
	国際社会科学部	国際社会科学科	=	2,183	2,412	1,879	1,726	=	=	21.83	4.14	24.12	6.62	23.49	6.50	21.58	6.55	コア(2017までは一般入試)
上智大学	経済学部	経済学科	1,983	1,840	2,130	1,962	1,908	18.89	5.52	17.52	4.49	20.29	5.36	18.69	6.08	18.17	N/A	一般入試
中央大学	経済学部	経済学科	3,104	3,162	3,720	4,427	4,119	18.15	5.40	18.49	6.07	15.00	7.44	17.85	8.22	16.61	8.17	一般入試(1・2日目)
		国際経済学科	1,190	1,049	1,024	1,049	1,063	9.44	3.30	8.33	3.89	8.13	6.37	8.33	7.06	8.44	6.62	一般入試
法政大学	経済学部	経済学科	3,141	3,649	4,384	4,326	4,447	11.99	4.32	14.25	4.28	17.47	6.63	19.06	7.18	19.59	7.01	A方式
		国際経済学科	1,089	1,990	1,741	1,957	1,788	7.78	2.47	15.43	4.34	14.63	4.79	16.87	5.93	15.41	4.39	A方式
明治大学	政治経済学部	経済学科	3,888	5,321	4,474	5,025	3,636	12.96	3.11	18.35	5.04	15.43	4.53	20.10	4.97	12.54	3.54	一般入試
立教大学	経済学部	経済学科	2,449	2,790	2,813	2,732	2,665	16.89	5.60	19.79	6.54	19.53	8.94	18.97	7.52	19.89	7.04	個別日程

(出典:各大学公表資料)

類似する大学・学部等の志願状況

大学	学部	学科名	志願者数				志願/実質倍率						備考
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減率	平成28年度		平成29年度		平成30年度		
							志願倍率	実質倍率	志願倍率	実質倍率	志願倍率	実質倍率	
新潟大学	経済学部	経済学科	358	284	239	67%	3.58	3.05	2.84	2.37	2.39	2.09	前期一般入試(昼)
金沢大学	人間社会学域 経済学類		255	317	238	93%	1.70	1.61	2.11	1.95	2.16	1.99	前期日程
首都大学東京	経済経営学部	経済経営学科	-	-	437	-	-	-	-	-	3.97	3.50	前期一般入試
青山学院大学	経済学部	経済学科	4,397	4,707	5,530	126%	-	6.65	-	8.18	23.04	10.15	個別A・B(2016は個別日程)
	国際政治経済学部	国際経済学科	753	670	851	113%	-	6.18	-	5.80	12.16	9.16	個別日程
学習院大学	経済学部	経済学科	3,005	2,766	3,011	100%	-	4.11	-	3.90	20.07	7.27	コア(2017までは一般入試)
	国際社会科学部	国際社会科学科	2,183	2,412	1,879	86%	-	4.14	-	6.62	23.49	6.50	コア(2017までは一般入試)
上智大学	経済学部	経済学科	1,840	2,130	1,962	107%	-	4.49	-	5.36	18.69	6.08	一般入試
中央大学	経済学部	経済学科	3,162	3,720	4,427	140%	-	6.07	-	7.44	17.85	8.22	一般入試(1・2日目)
		国際経済学科	1,049	1,024	1,049	100%	-	3.89	-	6.37	8.33	7.06	一般入試
法政大学	経済学部	経済学科	3,649	4,384	4,326	119%	-	4.28	-	6.63	19.06	7.18	A方式
		国際経済学科	1,990	1,741	1,957	98%	-	4.34	-	4.79	16.87	5.93	A方式
明治大学	政治経済学部	経済学科	5,321	4,474	5,025	94%	-	5.04	-	4.53	20.10	4.97	一般入試
立教大学	経済学部	経済学科	2,790	2,813	2,732	98%	-	6.54	-	8.94	18.97	7.52	個別日程

(出典:各大学公表資料)

(別紙資料3【新】)

授業科目名： 海外英語研修A（長期）	選択/必修： 選択	単位数： 4	セメスター： 4	担当教員名： Howard Brown Melodie Cook Tim Stoeckel 李佳
-----------------------	--------------	-----------	-------------	--

○ディプロマポリシーとの関連

知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力
		○	

○授業科目の概要

5週間程度の海外英語研修は、米国・デューク大学、カナダ・オタワ大学、カナダ・セントメアリーズ大学のそれぞれで実施する。研修先によって、実施の時期、対象学生や内容が異なる。アメリカで行われる研修は、2年次以降の夏期休暇に実施する（3～4年生も履修可）が、カナダで行われる研修は、2大学で隔年で実施するものとし、2年次以降の春期休暇に実施する（3年生も履修可）。なお、現地に赴く長期休暇の前の学期には研修参加のための事前指導がある。アメリカでの研修は、語学の授業のほかに、地域経済の活性化に携わる政府機関や民間団体に訪問するフィールドワークが企画されており、現地の社会経済事情への理解の深化を目指す。カナダでの研修は、豊富で多様な語学授業を中心とし、十分な語学教育の効果の確保を目指す。

○授業目標

本講義を通して、履修者が

- ・英語の運用能力の向上を目指す。
- ・異なる国や地域が面している課題と対策について、見学を通して具体的に理解する。
- ・異文化理解を一層高めるとともに国際的な視野を養成し、将来の長期にわたる留学につながる可能性を培う。
- ・(米国・デューク大学) 地域再生の成功例として注目されているピッツバーグでの勉学を通して、地域経済の発展戦略への理解を深める。

○授業計画（授業スケジュールと内容）

【事前指導】

長期休暇中の研修プログラムに参加することを前提として、ワークショップ形式で研修の準備を行う。事前学習については原則英語で行う。

第1回 イントロダクション：研修の概要説明

第2回 研修の詳細な説明及び負担費用等について

第3回 事前学習（研修内容についてのジグソーリーディング等）

第4回 事前学習（グループディスカッション演習）

第5回 滞在に関する事前調査（研修及びホームステイの質問票の回答作成等）

第6回 事前学習（研修先の基本情報についてのジグソーリーディング等）

第7回 海外旅行保険とセキュリティ関係説明会

第8回 事前学習（研修に参加した先輩の体験談）

第9回 事前学習（カルチャーショックについての講義とディスカッション）

第10回 事前学習（プレゼンテーション演習①）

第1 1回 事前学習（プレゼンテーション演習②）

第1 2回 渡航手続き：保険関係、渡航認証申請等

第1 3回 課外活動の説明と準備

第1 4回 渡航及び滞在の注意点に関する説明

第1 5回 滞在に関する安全指導と最終確認

【現地での研修】

米国（デュケイン大学） 4週間

第1週：フィールドワークを含む英語学習

引率する科目担当教員の指導の下に、以下のようなフィールドワークを含む英語学習を行う。

・Duquesne Universityの立地するピッツバーグの産業（鉄鋼業）の歴史、都市の再生等に関するゲスト・スピーカーによる各種講義の受講

・ピッツバーグ市の地域振興局における聞き取り及び再開発現場の視察

・鉄鋼所の跡地で観光開発を行っているNP0の訪問

・経済停滞地域に進出する中小企業の訪問と調査からなるフィールドワークへの参加

・学修成果報告会でのグループによるプレゼンテーション

第2～4週：Duquesne Universityが主催するESL Program

・トレーニング・クラス分けされた各クラスにおいて、Reading/Speaking/Listening/Writing/Notetaking/Discussionの集中的トレーニングの受講

カナダ（オタワ大学） 5週間

オタワ大学 Second Language Intensive Program

・英語集中コースにおける、Integrated Skills、English Language Enrichment Seminarの受講

・カナダ文化に触れるための課外活動への参加

・現地小学校を訪問し日本文化を伝えるフィールドワークへの参加

カナダ（セントメアリーズ大学） 5週間

セントメアリーズ大学 English Language and Canadian Culture Program

・英語集中コースにおける、Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary Developmentからなる英語トレーニングの受講

・カナダ文化に触れるための課外活動への参加

事前事後学習（学習課題）

事前学習では訪問先の国や地域に関する基本情報を調べ、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。研修後には、研修先での活動内容や学んだことをまとめて、レポートを提出する。

成績評価方法

事前指導への出席や研修中の参加度、研修後に提出するレポート等の課題等をもとに、総合的に評価を行う。

米国 (デュケイン大学)

事前指導での課題及び授業への積極的な参加 10%

フィールドワークへの能動的な参加及びグループ発表 15%

語学研修先での研修実績及び評価 50%

事後レポート 25%

カナダ (オタワ大学)

事前指導での課題及び授業への積極的な参加 10%

研修先での研修実績及び評価 85%

事後レポート 5%

カナダ (セントメアリーズ大学)

事前指導での課題及び授業への積極的な参加 10%

研修先での研修実績及び評価 85%

事後レポート 5%

教材 (テキスト)

特に指定しない。

参考文献

事前指導では参考資料を随時配布する。

備考

- ・事前指導では、英語と日本語で授業を行う。
- ・国際交流センターや旅行会社の予定により、事前指導の授業スケジュールが一部前後する可能性がある。

(別紙資料3【旧】)

授業科目名： 海外英語研修A（長期）	選択/必修： 選択	単位数： 4	セメスター： 2・3・4	担当教員名： Howard Gordon Brown Melodie Lorie Cook Timothy Richard Stoeckel 李 佳
-----------------------	--------------	-----------	-----------------	--

○ディプロマポリシーとの関連

知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力
		○	

○授業科目の概要

5週間程度の海外英語研修は、米国・デューク大学、カナダ・オタワ大学、カナダ・セントメアリーズ大学のそれぞれで実施する。研修先によって、実施の時期、対象学生や内容が異なる。アメリカで行われる研修は、2年次以降の夏期休暇に実施する（3～4年生も履修可）が、カナダで行われる研修は、2大学で隔年で実施するものとし、2年次以降の春期休暇に実施する（3年生も履修可）。なお、現地に赴く長期休暇の前の学期には研修参加のための事前指導がある。アメリカでの研修は、語学の授業のほかに、地域経済の活性化に携わる政府機関や民間団体に訪問するフィールドワークが企画されており、現地の社会経済事情への理解の深化を目指す。カナダでの研修は、豊富で多様な語学授業を中心とし、十分な語学教育の効果の確保を目指す。

○授業目標

本講義を通して、履修者が

- ・英語の運用能力の向上を目指す。
- ・異なる国や地域が面している課題と対策について、見学を通して具体的に理解する。
- ・異文化理解を一層高めるとともに国際的な視野を養成し、将来の長期にわたる留学につながる可能性を培う。

○授業計画（授業スケジュールと内容）

長期休暇中の研修プログラムに参加することを前提として、ワークショップ形式で研修の準備を行う。

- 1 ガイダンス（1）：海外研修の全学説明会
- 2 ガイダンス（2）：本研修の詳細な研修日程および負担費用について
- 3 渡航手続き（1）：大学への届け出や旅行会社の申込書類等について
- 4 渡航手続き（2）：パスポート申請と旅行関係説明会
- 5 事前学習（研修先の基本情報）
- 6 事前学習（研修先の基本情報）
- 7 事前学習（研修先の基本情報）
- 8 渡航手続き（3）：海外旅行保険とセキュリティ関係説明会
- 9 事前学習（研修先の基本情報）
- 10 事前学習（研修先の基本情報）
- 11 渡航手続き（4）：ESTA申請等
- 12 事前学習（研修先の基本情報）
- 13 事前学習（研修先の基本情報）

14 渡航手続き（5）：渡航に関する最終説明

15 滞在に関する安全指導と最終確認

各研修先での活動内容については、授業担当教員が授業ガイダンスの際に行う説明に準拠する。

事前事後学習（学習課題）

事前指導において訪問先の国や地域に関する基本情報を調べて、ディスカッションしたり、報告したりする課題がある。研修後には、具体的に何を学習したかをまとめて、報告する課題がある。

成績評価方法

事前指導、研修中の参加度、研修後に提出するレポート等の課題等をもとに、総合的に評価を行う。具体的には、各研修の担当教員の指示に従う。

教材（テキスト）

特に指定しない。

参考文献

事前指導では参考資料を随時配布する。

備考

- ・事前指導では、英語と日本語で授業を行う。
- ・国際交流センターや旅行会社の予定により、事前指導の授業スケジュールが一部前後する可能性がある。

授業科目名： 専門演習Ⅲ	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 7	担当教員名： 天龍 洋平
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅰ・Ⅱで培われた分析能力の一層の向上を図り、具体的な研究テーマを定めて卒業論文の執筆準備を進める。卒業論文のテーマや採用する主要な分析手法について、演習の場での発表や討論、教員による <u>指導</u> を通じて、内容を固めていく。				
○授業目標 卒業論文執筆に向けた準備として、方法や手順を学習する。また構想の骨格を作成し、その指導を通じて、論文の執筆に必要なデータの収集、文献調査、分析の試行を進める。				
○授業計画（授業スケジュールと内容） この演習の前半では、卒業論文の構想を発表し、各自の関心のあるテーマに関連した文献を収集し、集めた文献の読み込みを行う。後半では、テーマをより絞り卒業論文の執筆準備に取り組むとともに、卒業論文の執筆方針について <u>指導等</u> を行う。 1 ガイダンス 2 卒業論文構想発表 3 各自のテーマに関する文献の収集と読み込み（1）：Jones (2005) 4 各自のテーマに関する文献の収集と読み込み（2）：Jones (2005)の続き 5 各自のテーマに関する文献の収集と読み込み（3）：Bilir (2014) 6 各自のテーマに関する文献の収集と読み込み（4）：Bilir (2014)の続き 7 各自のテーマに関する文献の収集と読み込み（5）：Biswas (2015) 8 各自のテーマに関する文献の収集と読み込み（6）：Biswas (2015)の続き 9 卒業論文のテーマの絞り込み（1）：テーマに関する中間報告（前半） 10 卒業論文のテーマの絞り込み（2）：テーマに関する中間報告（後半） 11 <u>卒論骨格報告等</u> （1） 12 <u>卒論骨格報告等</u> （2） 13 <u>卒論骨格報告等</u> （3） 14 <u>卒論骨格報告等</u> （4） 15 <u>卒論骨格報告等</u> と専門演習Ⅳに向けた準備 上記に挙げた文献は例であり、受講生の関心などによって変更することがある。				
事前事後学習（学習課題） ・自分のテーマに関する文献の収集と読み込みは演習時間外にも行うこと。 ・卒業論文に関して指導を受けた後、教員の指摘したことを速やかに整理し、論文の内容の修				

正等を行うこと。

- ・質問などがある場合は速やかに教員に相談すること。

成績評価方法

テキスト報告、卒論骨格報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、内容の評価を勘案し成績を評価する。

教材 (テキスト)

- ・酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版』共立出版、2017年、ISBN : 9784320005983.
- ・二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』日本評論社、2015年、ISBN : 9784535556737.

参考文献

- ・酒井聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版、2015年、ISBN : 9784320005952.
- ・酒井聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版、2015年、ISBN : 9784320005952.
- ・David N. Weil. (2013), *Economic Growth Third Edition*, Pearson, ISBN: : 9780273769293.
- ・Charles I. Jones and Dietrich Vollrath. (2013), *Introduction to Economic Growth*, W. W. Norton & Company, ISBN : 9780393920789.
- ・Philippe Aghion and Peter W. Howitt. (2008), *The Economics of Growth*, The MIT Press, ISBN : 9780262012638.
- ・Jones, C. I. (2005), Growth and Ideas, in *Handbook of Economic Growth, Volume 1B*. Edited by Philippe Aghion and Steven N. Durlauf.
- ・Bilir, L. K. (2014), Patent Laws, Product Life-Cycle Lengths, and Multinational Activity, *American Economic Review*, 104(7), 1979-2013.
- ・Biswas, R. (2015), Innovation and Labour Mobility, *Journal of Economics*, 116, 229-246.

備考

授業科目名： 専門演習Ⅲ	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 7	担当教員名： 天龍 洋平
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅰ・Ⅱで培われた分析能力の一層の向上を図り、具体的な研究テーマを定めて卒業論文の執筆準備を進める。卒業論文のテーマや採用する主要な分析手法について、演習の場での発表や討論、教員による個別指導を通じて、内容を固めていく。</p>				
○授業目標				
<p>卒業論文執筆に向けた準備として、方法や手順を学習する。また構想の骨格を作成し、その指導を通じて、論文の執筆に必要なデータの収集、文献調査、分析の試行を進める。</p>				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<p>この演習の前半では、卒業論文の構想を発表し、各自の関心のあるテーマに関連した文献を収集し、集めた文献の読込みを行う。後半では、テーマをより絞り卒業論文の執筆準備に取り組むとともに、卒業論文の執筆方針について教員が個人指導などを行う。</p>				
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 卒業論文構想発表 3 各自のテーマに関する文献の収集と読込み（1）：Jones (2005) 4 各自のテーマに関する文献の収集と読込み（2）：Jones (2005)の続き 5 各自のテーマに関する文献の収集と読込み（3）：Bilir (2014) 6 各自のテーマに関する文献の収集と読込み（4）：Bilir (2014)の続き 7 各自のテーマに関する文献の収集と読込み（5）：Biswas (2015) 8 各自のテーマに関する文献の収集と読込み（6）：Biswas (2015)の続き 9 卒業論文のテーマの絞り込み（1）：テーマに関する中間報告（前半） 10 卒業論文のテーマの絞り込み（2）：テーマに関する中間報告（後半） 11 卒論個別指導（1） 12 卒論個別指導（2） 13 卒論個別指導（3） 14 卒論個別指導（4） 15 卒論個別指導と専門演習Ⅳに向けた準備 				
<p>上記に挙げた文献は例であり、受講生の関心などによって変更することがある。</p>				
事前事後学習（学習課題）				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマに関する文献の収集と読込みは演習時間外にも行うこと。 ・論文作成の指導を受けた後、教員の指摘したことを速やかに整理し、論文の内容の修正等を 				

行うこと。

- ・質問などがある場合は速やかに教員に相談すること。

成績評価方法

テキスト報告、卒論骨格報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、内容の評価を勘案し成績を評価する。

教材 (テキスト)

- ・酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版』共立出版、2017年、ISBN : 9784320005983.
- ・二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』日本評論社、2015年、ISBN : 9784535556737.

参考文献

- ・酒井聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版、2015年、ISBN : 9784320005952.
- ・酒井聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版、2015年、ISBN : 9784320005952.
- ・David N. Weil. (2013), *Economic Growth Third Edition*, Pearson, ISBN: : 9780273769293.
- ・Charles I. Jones and Dietrich Vollrath. (2013), *Introduction to Economic Growth*, W. W. Norton & Company, ISBN : 9780393920789.
- ・Philippe Aghion and Peter W. Howitt. (2008), *The Economics of Growth*, The MIT Press, ISBN : 9780262012638.
- ・Jones, C. I. (2005), Growth and Ideas, in *Handbook of Economic Growth, Volume 1B*. Edited by Philippe Aghion and Steven N. Durlauf.
- ・Bilir, L. K. (2014), Patent Laws, Product Life-Cycle Lengths, and Multinational Activity, *American Economic Review*, 104(7), 1979-2013.
- ・Biswas, R. (2015), Innovation and Labour Mobility, *Journal of Economics*, 116, 229-246.

備考

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 石塚 辰美
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表</u>、討論を通じて学習する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開</u>に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 <u>卒論の中間発表・指導1</u> 卒論テーマ選定のための議論と指導 2 <u>卒論の中間発表・指導2</u> 先行研究と卒論テーマとの関係 3 <u>卒論の中間発表・指導3</u> 卒論テーマに関係する先行研究調査(1) 4 <u>卒論の中間発表・指導4</u> 卒論テーマに関係する先行研究調査(2) 5 <u>卒論の中間発表・指導5</u> 卒論テーマに関係する先行研究調査(3) 6 <u>卒論の中間発表・指導6</u> 卒論テーマ骨子に関する議論と指導 7 <u>卒論の中間発表・指導7</u> 中間発表に関する議論と指導 8 <u>卒論中間発表の総括、指導</u> 9 <u>卒論の構成・展開の指導1</u> 中間発表の講評に基づく見直し 10 <u>卒論の構成・展開の指導2</u> 卒論テーマに関係する先行研究調査(4) 11 <u>卒論の構成・展開の指導3</u> 卒論の骨子確定と卒論執筆指導 12 <u>卒論の構成・展開の指導4</u> 卒論執筆(1) 13 <u>卒論の構成・展開の指導5</u> 卒論執筆(2) 14 卒論の最終確認 15 卒論の発表指導 				
○事前事後学習（学習課題）				
<p>中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。<u>卒論の構成・展開の指導</u>を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
○成績評価方法				
<p>卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。</p>				

教材 (テキスト)

特に使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 石塚 辰美
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 卒論個別指導1 卒論テーマ選定のための議論と指導 2 卒論個別指導2 先行研究と卒論テーマとの関係 3 卒論個別指導3 卒論テーマに関係する先行研究調査(1) 4 卒論個別指導4 卒論テーマに関係する先行研究調査(2) 5 卒論個別指導5 卒論テーマに関係する先行研究調査(3) 6 卒論個別指導6 卒論テーマ骨子に関する議論と指導 7 卒論個別指導7 中間発表に関する議論と指導 8 卒論中間発表、質疑応答、講評 9 卒論個別指導8 中間発表の講評に基づく見直し 10 卒論個別指導9 卒論テーマに関係する先行研究調査(4) 11 卒論個別指導10 卒論の骨子確定と卒論執筆指導 12 卒論個別指導11 卒論執筆(1) 13 卒論個別指導12 卒論執筆(2) 14 卒論の最終確認 15 卒論の発表指導 				
○事前事後学習（学習課題）				
<p>研究計画に従い調査・研究を進め、中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
○成績評価方法				
<p>卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。</p>				

教材 (テキスト)

特に使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 山中 知彦
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。 この演習の前半では、 <u>演習での中間発表</u> 、 <u>討論を通じて学習</u> する。後半では、 <u>卒業論文の構成・展開</u> に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
1 <u>卒論中間発表、指導 1</u>				
2 <u>卒論中間発表、指導 2</u>				
3 <u>卒論中間発表、指導 3</u>				
4 <u>卒論中間発表、指導 4</u>				
5 <u>卒論中間発表、指導 5</u>				
6 <u>卒論中間発表、指導 6</u>				
7 <u>卒論の構成・展開の指導 1</u>				
8 <u>卒論の構成・展開の指導 2</u>				
9 <u>卒論の構成・展開の指導 3</u>				
10 <u>卒論の構成・展開の指導 4</u>				
11 <u>卒論の構成・展開の指導 5</u>				
12 <u>卒論の構成・展開の指導 6</u>				
13 卒論の概要発表 1				
14 卒論の概要発表 2				
15 卒論の概要発表 3				
事前事後学習（学習課題） 中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。 <u>卒論の構成・展開</u> の指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。				
成績評価方法 卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				

教材 (テキスト)

特に使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 関谷 浩史
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。 この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容） 1 卒論中間発表、質疑応答、講評 1 2 卒論中間発表、質疑応答、講評 2 3 卒論中間発表、質疑応答、講評 3 4 卒論中間発表、質疑応答、講評 4 5 卒論中間発表、質疑応答、講評 5 6 卒論中間発表、質疑応答、講評 6 7 卒論個別指導 1 8 卒論個別指導 2 9 卒論個別指導 3 10 卒論個別指導 4 11 卒論個別指導 5 12 卒論個別指導 6 13 卒論の概要発表 1 14 卒論の概要発表 2 15 卒論の概要発表 3				
事前事後学習（学習課題） 中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。				
成績評価方法 卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				
教材（テキスト）				

特に使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	semester： 8	担当教員名： 中島 厚志
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表、討論</u>を通じて学習する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開</u>に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 <u>卒論中間発表、指導</u> 1 2 <u>卒論中間発表、指導</u> 2 3 <u>卒論中間発表、指導</u> 3 4 <u>卒論中間発表、指導</u> 4 5 <u>卒論中間発表、指導</u> 5 6 <u>卒論中間発表、指導</u> 6 7 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 1 8 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 2 9 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 3 10 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 4 11 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 5 12 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 6 13 卒論の概要発表 1 14 卒論の概要発表 2 15 卒論の概要発表 3 				
事前事後学習（学習課題）				
<p>中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。<u>卒論の構成・展開の指導</u>を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
成績評価方法				
卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答時における積極性、質問やコ				

メントの内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。

教材（テキスト）

特に使用しない。

参考文献

Paul R. Krugman et al., International Finance Theory and Policy eleventh edition, Pearson, 2018

IMF, Global Financial Stability Report, 2018

指導の過程で適宜紹介する。

備考

- ・連続する2コマを利用して実施する。3年生と4年生全員が両方の時限に出席することが望ましい。
- ・「世界経済入門」（1前）、「国際金融Ⅰ」（2後）、「国際金融Ⅱ」（3前）を履修していることが望ましい
- ・受講者数によって、発表および討論の形式を調整する場合がある。

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	semester： 8	担当教員名： 中島 厚志
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。 この演習の前半では、卒業論文の中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
1 卒論中間発表・質疑応答 講評1				
2 卒論中間発表・質疑応答 講評2				
3 卒論中間発表・質疑応答 講評3				
4 卒論中間発表・質疑応答 講評4				
5 卒論中間発表・質疑応答 講評5				
6 卒論中間発表・質疑応答 講評6				
7 卒論個別指導1				
8 卒論個別指導2				
9 卒論個別指導3				
10 卒論個別指導4				
11 卒論個別指導5				
12 卒論個別指導6				
13 卒論の概要発表1				
14 卒論の概要発表2				
15 卒論の概要発表3				
事前事後学習（学習課題） 中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。				
成績評価方法 卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答時における積極性、質問やコメントの内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				
教材（テキスト） 特に使用しない。				

参考文献

Paul R. Krugman et al., International Finance Theory and Policy eleventh edition, Pearson, 2018

IMF, Global Financial Stability Report, 2018

指導の過程で適宜紹介する。

備考

- ・連続する2コマを利用して実施する。3年生と4年生全員が両方の時限に出席することが望ましい。
- ・「世界経済入門」(1前)、「国際金融Ⅰ」(2後)、「国際金融Ⅱ」(3前)を履修していることが望ましい
- ・受講者数によって、発表および討論の形式を調整する場合がある。

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 秋山 太郎
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表</u>、<u>討論を通じて学習</u>する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開</u>に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 卒論中間発表ガイダンス 2 <u>卒論中間発表、指導</u> 1 3 <u>卒論中間発表、指導</u> 2 4 <u>卒論中間発表、指導</u> 3 5 <u>卒論中間発表、指導</u> 4 6 <u>卒論中間発表、指導</u> 5 7 卒論中間発表全体についてのまとめと講評、卒論執筆上の注意点の再確認 8 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 1 9 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 2 10 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 3 11 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 4 12 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 5 13 卒論の概要発表 1 14 卒論の概要発表 2 15 卒論の概要発表 3 				
事前事後学習（学習課題）				
<p>中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。<u>卒論の構成・展開の指導</u>を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
成績評価方法				
<p>卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。</p>				

教材（テキスト）

特に使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 秋山 太郎
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 卒論中間発表ガイダンス 2 卒論中間発表、質疑応答、講評 1 3 卒論中間発表、質疑応答、講評 2 4 卒論中間発表、質疑応答、講評 3 5 卒論中間発表、質疑応答、講評 4 6 卒論中間発表、質疑応答、講評 5 7 卒論中間発表全体についてのまとめと講評、卒論執筆上の注意点の再確認 8 卒論個別指導 1 9 卒論個別指導 2 10 卒論個別指導 3 11 卒論個別指導 4 12 卒論個別指導 5 13 卒論の概要発表 1 14 卒論の概要発表 2 15 卒論の概要発表 3 				
事前事後学習（学習課題）				
<p>中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
成績評価方法				
<p>卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。</p>				

教材（テキスト）

特に使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 細谷 祐二
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表</u>、討論を通じて学習する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開</u>に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 <u>卒論中間発表、指導</u> 1 2 <u>卒論中間発表、指導</u> 2 3 <u>卒論中間発表、指導</u> 3 4 <u>卒論中間発表、指導</u> 4 5 <u>卒論中間発表、指導</u> 5 6 <u>卒論中間発表、指導</u> 6 7 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 1 8 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 2 9 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 3 10 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 4 11 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 5 12 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 6 13 卒論の概要発表 1 14 卒論の概要発表 2 15 卒論の概要発表 3 				
○事前事後学習（学習課題）				
<p>中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。<u>卒論の構成・展開の指導</u>を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
○成績評価方法				
<p>卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答等の総合評価、質問における積極性、内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。</p>				

教材（テキスト）

特に使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 細谷 祐二
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。 この演習の前半では、卒論の中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
1 卒論中間発表、質疑応答、講評 1				
2 卒論中間発表、質疑応答、講評 2				
3 卒論中間発表、質疑応答、講評 3				
4 卒論中間発表、質疑応答、講評 4				
5 卒論中間発表、質疑応答、講評 5				
6 卒論中間発表、質疑応答、講評 6				
7 卒論個別指導 1				
8 卒論個別指導 2				
9 卒論個別指導 3				
10 卒論個別指導 4				
11 卒論個別指導 5				
12 卒論個別指導 6				
13 卒論の概要発表 1				
14 卒論の概要発表 2				
15 卒論の概要発表 3				
事前事後学習（学習課題） 中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。				
成績評価方法 卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答等の総合評価、質問における積極性、内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				

教材 (テキスト)

特に使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 黒岩 郁雄
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表</u>、討論を通じて学習する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開</u>に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 各グループによる分析結果、政策提言に関する中間報告(グループ別 1) 3 各グループによる分析結果、政策提言に関する中間報告(グループ別 2) 4 各グループによる分析結果、政策提言に関する中間報告(グループ別 3) 5 各グループによる分析結果、政策提言に関する中間報告(グループ別 4) 6 成果報告に向けてガイダンス 7 各グループによる分析結果、政策提言に関する成果報告(グループ別 1) 8 各グループによる分析結果、政策提言に関する成果報告(グループ別 2) 9 各グループによる分析結果、政策提言に関する成果報告(グループ別 3) 10 各グループによる分析結果、政策提言に関する成果報告(グループ別 4) 11 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 12 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 13 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 14 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 15 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 				
事前事後学習（学習課題）				
グループ内で緊密に連携し、実証分析を行い、政策提言をまとめる。あわせて分析対象の自治体、地域を訪問し、政策担当者からフィードバックを受けることが望ましい。				
成績評価方法				
各グループが作成した報告書に対する全体評価、各執筆者が担当した章に対する個別評価の両方をあわせて総合的に評価する。				

教材 (テキスト)

特定のテキストは使用しない。指導の過程で適宜紹介する。

参考文献

参考資料については、指導の過程で適宜紹介する。

備考

- ・連続する2コマを利用して実施する。3年生と4年生全員が両方の時限に出席し、4年生がリードしてグループの活動を統括する。
- ・ミクロ経済学、計量経済学の基礎的な教科を履修するとともに、地域経済学 I、地域経済学 II を履修していることが望ましい。

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	semester： 8	担当教員名： 黒岩 郁雄
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 各グループによる分析結果、政策提言に関する中間報告(グループ別 1) 3 各グループによる分析結果、政策提言に関する中間報告(グループ別 2) 4 各グループによる分析結果、政策提言に関する中間報告(グループ別 3) 5 各グループによる分析結果、政策提言に関する中間報告(グループ別 4) 6 最終報告に向けてガイダンス 7 各グループによる分析結果、政策提言に関する最終報告(グループ別 1) 8 各グループによる分析結果、政策提言に関する最終報告(グループ別 2) 9 各グループによる分析結果、政策提言に関する最終報告(グループ別 3) 10 各グループによる分析結果、政策提言に関する最終報告(グループ別 4) 11 卒論の個別指導 12 卒論の個別指導 13 卒論の個別指導 14 卒論の個別指導 15 卒論の個別指導 				
事前事後学習（学習課題）				
グループ内で緊密に連携し、実証分析を行い、政策提言をまとめる。あわせて分析対象の自治体、地域を訪問し、政策担当者からフィードバックを受けることが望ましい。				
成績評価方法				
各グループが作成した報告書に対する全体評価、各執筆者が担当した章に対する個別評価の両方をあわせて総合的に評価する。				
教材（テキスト）				
特定のテキストは使用しない。指導の過程で適宜紹介する。				

参考文献

参考資料については、指導の過程で適宜紹介する。

備考

- ・連続する2コマを利用して実施する。3年生と4年生全員が両方の時限に出席し、4年生がリードしてグループの活動を統括する。
- ・マイクロ経済学、計量経済学の基礎的な教科を履修するとともに、地域経済学Ⅰ、地域経済学Ⅱを履修していることが望ましい。

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： Ng Chin Leong, Patrick
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。 この演習の前半では、 <u>演習での</u> 中間発表、討論を通じて学習する。後半では、 <u>卒業論文の構成・展開</u> に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容） 1 Introduction to Thesis course 2 Research Outline and Planning 1 3 Research Outline and Planning 2 4 Literature Review 1 5 Literature Review 2 6 Literature Review 3 7 An overview of the research process 8 Data Collection using the survey method 9 Data Collection using the semi-structure interview method 10 Data Collection using the case study 11 Writing of thesis: The introduction 12 Writing of thesis: The research questions 13 Writing of thesis: Research methodology 14 Writing of thesis: Results analysis 15 Writing of thesis: The conclusion				
事前事後学習（学習課題）				
成績評価方法 Thesis writing (60%), Class assignments (20%). Oral Presentation (20%)				
教材（テキスト） Supplementary reading materials will be provided by the instructor				

参考文献

備考

Students will engage in a research on a specific Asian country focusing on the historical development, issues or problems related to the social and business development in an Asian country. Some of these issues may include governmental national planning or strategies, consumption culture, education, business history, business setting or economic policy in an Asian country. The case study approach will be adopted for this study. Students should have attended my Pre-Seminar class on “Understanding Asia.”

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： Ng Chin Leong, Patrick
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。 この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容） 1 Introduction to Thesis course 2 Research Outline and Planning 1 3 Research Outline and Planning 2 4 Literature Review 1 5 Literature Review 2 6 Literature Review 3 7 An overview of the research process 8 Data Collection using the survey method 9 Data Collection using the semi-structure interview method 10 Data Collection using the case study 11 Writing of thesis: The introduction 12 Writing of thesis: The research questions 13 Writing of thesis: Research methodology 14 Writing of thesis: Results analysis 15 Writing of thesis: The conclusion				
事前事後学習（学習課題）				
成績評価方法 Thesis writing (60%), Class assignments (20%). Oral Presentation (20%)				
教材（テキスト） Supplementary reading materials will be provided by the instructor				

参考文献

備考

Students will engage in a research on a specific Asian country focusing on the historical development, issues or problems related to the social and business development in an Asian country. Some of these issues may include governmental national planning or strategies, consumption culture, education, business history, business setting or economic policy in an Asian country. The case study approach will be adopted for this study. Students should have attended my Pre-Seminar class on “Understanding Asia.”

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 坂口 淳
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表</u>、討論を通じて学習する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開</u>に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 <u>卒論の中間発表・指導 1</u>（調査、実験を実施し、データ収集する） 2 <u>卒論の中間発表・指導 2</u>（調査、実験を実施し、データ収集する） 3 <u>卒論の中間発表・指導 3</u>（調査、実験を実施し、データ収集する） 4 <u>卒論の中間発表・指導 4</u>（調査、実験を実施し、データ収集する） 5 卒論の進捗状況に関する発表 1（前半のグループが進捗状況について報告する） 6 卒論の進捗状況に関する発表 2（後半のグループが進捗状況について報告する） 7 <u>卒論の構成・展開の指導 1</u>（調査、実験で収集したデータ収集の結果を整理する） 8 <u>卒論の構成・展開の指導 2</u>（調査、実験で収集したデータ収集の結果を整理する） 9 <u>卒論の構成・展開の指導 3</u>（調査、実験で収集したデータ収集の結果を整理する） 10 <u>卒論の構成・展開の指導 4</u>（調査、実験で収集したデータ収集の結果を整理する） 11 <u>卒論の構成・展開の指導 5</u>（調査、実験で収集したデータ収集の結果を整理する） 12 <u>卒論の構成・展開の指導 6</u>（調査、実験で収集したデータ収集の結果を整理する） 13 卒業論文の発表練習（発表会の説明とプレゼンテーションのトレーニング） 14 卒業論文の概要発表 1（前半のグループの発表会） 15 卒業論文の概要発表 2（後半のグループの発表会） 				
○事前事後学習（学習課題）				
毎日の生活で、研究テーマに関係する事柄についてアイデアノートをつくり、情報収集する癖を身につけてください。				
○成績評価方法				
平素の卒論の取り組み状況と卒論の完成度を総合的に判断して評価する。				
○教材（テキスト）				

特になし

参考文献

特になし

備考

卒業論文の作成は、日々の地道な努力の積み重ねが大切である。私が担当する専門演習Ⅲ－Ⅳを希望する学生は、時間割以外にも積極的に研究室に顔を出し、研究する心がけが必要です。

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 坂口 淳
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 卒論個別指導 1（調査、実験を実施し、データ収集する） 2 卒論個別指導 2（調査、実験を実施し、データ収集する） 3 卒論個別指導 3（調査、実験を実施し、データ収集する） 4 卒論個別指導 4（調査、実験を実施し、データ収集する） 5 卒論の進捗状況に関する発表 1（前半のグループが進捗状況について報告する） 6 卒論の進捗状況に関する発表 2（後半のグループが進捗状況について報告する） 7 卒論個別指導 5（調査、実験を実施し、データ収集する） 8 卒論個別指導 6（調査、実験を実施し、データ収集する） 9 卒論個別指導 7（調査、実験を実施し、データ収集する） 10 卒論個別指導 8（調査、実験を実施し、データ収集する） 11 卒業論文の添削指導 1（前半のグループの指導） 12 卒業論文の添削指導 1（後半のグループの指導） 13 卒業論文の発表練習（発表会の説明とプレゼンテーションのトレーニング） 14 卒業論文の概要発表 1（前半のグループの発表会） 15 卒業論文の概要発表 2（後半のグループの発表会） 				
事前事後学習（学習課題）				
毎日の生活で、研究テーマに関係する事柄についてアイデアノートをつくり、情報収集する癖を身につけてください。				
成績評価方法				
平素の卒論の取り組み状況と卒論の完成度を総合的に判断して評価する。				
教材（テキスト）				

特になし

参考文献

特になし

備考

卒業論文の作成は、日々の地道な努力の積み重ねが大切である。私が担当する専門演習Ⅲ－Ⅳを希望する学生は、時間割以外にも積極的に研究室に顔を出し、研究する心がけが必要です。

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 鎌田 伊佐生
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表</u>、<u>討論を通じて学習</u>する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開に関して</u>教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（1） 2 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（2） 3 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（3） 4 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（4） 5 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（5） 6 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（6） 7 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（1） 8 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（2） 9 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（3） 10 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（4） 11 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（5） 12 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（6） 13 卒業論文の概要発表（1） 14 卒業論文の概要発表（2） 15 卒業論文の概要発表（3） 				
事前事後学習（学習課題）				
<p>中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。<u>卒論の構成・展開の指導</u>を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
成績評価方法				
<p>卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答における積極性や質問・コメントの内容の評価、卒業論文の内容と完成度等を勘案し成績を評価する。</p>				

教材 (テキスト)

特に使用しない。

参考文献

卒論指導の過程で適宜紹介する。

備考

専門演習Ⅲと同様、「国際貿易Ⅰ」(2前)、「国際貿易Ⅱ」(2後)、および「計量経済学Ⅰ」(2前)を履修していることが望ましい。

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 鎌田 伊佐生
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（1） 2 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（2） 3 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（3） 4 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（4） 5 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（5） 6 卒業論文中間発表、質疑応答・コメントを通じたフィードバック（6） 7 卒業論文個別指導（1） 8 卒業論文個別指導（2） 9 卒業論文個別指導（3） 10 卒業論文個別指導（4） 11 卒業論文個別指導（5） 12 卒業論文個別指導（6） 13 卒業論文の概要発表（1） 14 卒業論文の概要発表（2） 15 卒業論文の概要発表（3） 				
事前事後学習（学習課題）				
<p>中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
成績評価方法				
<p>卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答における積極性や質問・コメントの内容の評価、卒業論文の内容と完成度等を勘案し成績を評価する。</p>				
教材（テキスト）				

特に使用しない。

参考文献

卒論指導の過程で適宜紹介する。

備考

専門演習Ⅲと同様、「国際貿易Ⅰ」（２前）、「国際貿易Ⅱ」（２後）、および「計量経済学Ⅰ」（２前）を履修していることが望ましい。

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 青木 知一郎
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。 この演習の前半では、 <u>演習での中間発表</u> 、 <u>討論を通じて学習</u> する。後半では、 <u>卒業論文の構成・展開</u> に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
1 卒論中間発表、指導 1				
2 卒論中間発表、指導 2				
3 卒論中間発表、指導 3				
4 卒論中間発表、指導 4				
5 卒論中間発表、指導 5				
6 卒論中間発表、指導 6				
7 卒論の構成・展開の指導 1				
8 卒論の構成・展開の指導 2				
9 卒論の構成・展開の指導 3				
10 卒論の構成・展開の指導 4				
11 卒論の構成・展開の指導 5				
12 卒論の構成・展開の指導 6				
13 卒論の概要発表 1				
14 卒論の概要発表 2				
15 卒論の概要発表 3				
事前事後学習（学習課題） 中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。 <u>卒論の構成・展開の指導</u> を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。				
成績評価方法 卒論中間報告の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答時における積極性、質問やコメントの内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				

教材 (テキスト) 使用しない。
参考文献 指導の過程で適宜紹介する。
備考

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 青木 知一郎
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 卒論中間発表、質疑応答、講評 2 卒論中間発表、質疑応答、講評 3 卒論中間発表、質疑応答、講評 4 卒論中間発表、質疑応答、講評 5 卒論中間発表、質疑応答、講評 6 卒論中間発表、質疑応答、講評 7 卒論個別指導 8 卒論個別指導 9 卒論個別指導 10 卒論個別指導 11 卒論個別指導 12 卒論個別指導 13 卒論個別指導 14 卒論の概要発表 15 卒論の概要発表 				
事前事後学習（学習課題）				
<p>中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
成績評価方法				
<p>卒論中間報告の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答時における積極性、質問やコメントの内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。</p>				
教材（テキスト）				

使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 田村 龍一
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表</u>、討論を通じて学習する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開</u>に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席者による各自の研究内容の共有 2 <u>卒論の中間発表</u>と教員学生全員によるディスカッション1 3 <u>卒論の中間発表</u>と教員学生全員によるディスカッション2 4 <u>卒論の中間発表</u>と教員学生全員によるディスカッション3 5 <u>卒論の中間発表</u>と教員学生全員によるディスカッション4 6 <u>卒論の中間発表</u>と教員学生全員によるディスカッション5 7 [ゼミ中間発表 1]担当学生による<u>進捗状況発表</u> 8 [ゼミ中間発表 2]担当学生による<u>進捗状況発表</u> 9 担当学生による<u>卒論の構成・展開</u>の発表と教員学生全員によるディスカッション1 10 担当学生による<u>卒論の構成・展開</u>の発表と教員学生全員によるディスカッション2 11 担当学生による<u>卒論の構成・展開</u>の発表と教員学生全員によるディスカッション3 12 担当学生による<u>卒論の構成・展開</u>の発表と教員学生全員によるディスカッション4 13 担当学生による<u>卒論の構成・展開</u>の発表と教員学生全員によるディスカッション5 14 <u>卒論の概要の発表 1</u> 15 <u>卒論の概要の発表 2</u> 				
○事前事後学習（学習課題）				
演習中に教員や他の学生から受けた指摘やコメントに対して、必ず次回までに回答を用意しておくこと。				
○成績評価方法				
各自が決めたテーマ設定、現実データの扱い方、実証分析の内容によって評価する。				

教材 (テキスト)

なし

参考文献

- ・ 各自の卒業研究テーマに応じて先行研究などを適宜指示する。

備考

オフィスアワーを活用して、個人的な相談を積極的に行うこと。

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 田村 龍一
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席者による各自の研究内容の共有 2 担当学生による発表と教員学生全員によるディスカッション 3 担当学生による発表と教員学生全員によるディスカッション 4 担当学生による発表と教員学生全員によるディスカッション 5 担当学生による発表と教員学生全員によるディスカッション 6 担当学生による発表と教員学生全員によるディスカッション 7 [ゼミ中間発表 1]担当学生による発表 8 [ゼミ中間発表 2]担当学生による発表 9 担当学生による発表と教員学生全員によるディスカッション 10 担当学生による進捗発表と教員学生全員によるディスカッション 11 担当学生による進捗発表と教員学生全員によるディスカッション 12 担当学生による進捗発表と教員学生全員によるディスカッション 13 担当学生による進捗発表と教員学生全員によるディスカッション 14 担当学生による進捗発表と教員学生全員によるディスカッション 15 担当学生による進捗発表と教員学生全員によるディスカッション 				
○事前事後学習（学習課題）				
演習中に教員や他の学生から受けた指摘やコメントに対して、必ず次回までに回答を用意しておくこと。				
○成績評価方法				
各自が決めたテーマ設定、現実データの扱い方、実証分析の内容によって評価する。				

教材 (テキスト)

なし

参考文献

- ・ 各自の卒業研究テーマに応じて先行研究などを適宜指示する。

備考

オフィスアワーを活用して、個人的な相談を積極的に行うこと。

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 塚田 尚稔
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。 この演習の前半では、 <u>演習での中間発表、討論を通じて学習する</u> 。後半では、 <u>卒業論文の構成・展開に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する</u> 。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容） 1 卒論中間発表、指導 1 2 卒論中間発表、指導 2 3 卒論中間発表、指導 3 4 卒論中間発表、指導 4 5 卒論中間発表、指導 5 6 卒論中間発表、指導 6 7 卒論の構成・展開の指導 1 8 卒論の構成・展開の指導 2 9 卒論の構成・展開の指導 3 10 卒論の構成・展開の指導 4 11 卒論の構成・展開の指導 5 12 卒論の構成・展開の指導 6 13 卒論の構成・展開の指導 7 14 卒論の概要発表 1 15 卒論の概要発表 2				
事前事後学習（学習課題） 中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。 <u>卒論の構成・展開の指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</u>				
成績評価方法 卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答時における積極性、質問やコメントの内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				
教材（テキスト） 特に使用しない				

参考文献

必要に応じて紹介する

備考

- ・連続する2コマを利用して実施する。3年生と4年生全員が両方の時限に出席することが望ましい。
- ・「ミクロ経済学Ⅰ」「産業経済学」「計量経済学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 塚田 尚稔
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。 この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
1 卒論中間発表・質疑応答 1 2 卒論中間発表・質疑応答 2 3 卒論中間発表・質疑応答 3 4 卒論中間発表・質疑応答 4 5 卒論中間発表・質疑応答 5 6 卒論中間発表・質疑応答 6 7 卒論個別指導 1 8 卒論個別指導 2 9 卒論個別指導 3 10 卒論個別指導 4 11 卒論個別指導 5 12 卒論個別指導 6 13 卒論個別指導 7 14 卒論の概要発表 1 15 卒論の概要発表 2				
事前事後学習（学習課題） 中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。				
成績評価方法 卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答時における積極性、質問やコメントの内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				
教材（テキスト） 特に使用しない				
参考文献 必要に応じて紹介する				

備考

- ・連続する2コマを利用して実施する。3年生と4年生全員が両方の時限に出席することが望ましい。
- ・「ミクロ経済学Ⅰ」「産業経済学」「計量経済学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 藤井 誠二
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表</u>、<u>討論</u>を通じて学習する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開</u>に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 <u>卒論中間発表、指導</u> 2 <u>卒論中間発表、指導</u> 3 <u>卒論中間発表、指導</u> 4 <u>卒論中間発表、指導</u> 5 <u>卒論中間発表、指導</u> 6 <u>卒論中間発表、指導</u> 7 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 8 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 9 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 10 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 11 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 12 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 13 卒論の概要発表 14 卒論の概要発表 15 卒論の概要発表 				
○事前事後学習（学習課題）				
<p>中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。<u>卒論の構成・展開の指導</u>を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
○成績評価方法				
<p>卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答時における積極性、質問やコメントの内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。</p>				

教材 (テキスト)

特に使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

- ・連続する2コマを利用して実施する。3年生と4年生全員が両方の時限に出席することが望ましい。
- ・「経済学入門 (ミクロ)」、「ミクロ経済学 I」、「計量経済学 I」を履修していることが望ましい。
- ・受講者数によって、発表および討論の形式を調整する場合がある。

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 藤井 誠二
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。 この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
1 卒論中間発表・質疑応答				
2 卒論中間発表・質疑応答				
3 卒論中間発表・質疑応答				
4 卒論中間発表・質疑応答				
5 卒論中間発表・質疑応答				
6 卒論中間発表・質疑応答				
7 卒論個別指導				
8 卒論個別指導				
9 卒論個別指導				
10 卒論個別指導				
11 卒論個別指導				
12 卒論個別指導				
13 卒論の概要発表				
14 卒論の概要発表				
15 卒論の概要発表				
事前事後学習（学習課題） 中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。				
成績評価方法 卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答時における積極性、質問やコメントの内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				

教材 (テキスト)

特に使用しない。

参考文献

指導の過程で適宜紹介する。

備考

- ・連続する2コマを利用して実施する。3年生と4年生全員が両方の時限に出席することが望ましい。
- ・「経済学入門 (ミクロ)」、「ミクロ経済学 I」、「計量経済学 I」を履修していることが望ましい。
- ・受講者数によって、発表および討論の形式を調整する場合がある。

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 李 佳
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表、討論を通じて学習する</u>。後半では、<u>卒業論文の構成・展開</u>に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 卒論作成のスケジュールの説明、研究論文の書き方ガイダンス 2 各自のテーマに関する仮説、論証の収集状況、計画書の報告（1） 3 各自のテーマに関する仮説、論証の収集状況、計画書の報告（2） 4 各自のテーマに関する仮説、論証の収集状況、計画書の報告（3） 5 各自のテーマに関する仮説、論証の収集状況、計画書の報告（4） 6 卒論中間報告（1） 7 卒論中間報告（2） 8 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（1） 9 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（2） 10 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（3） 11 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（4） 12 <u>卒論の構成・展開の指導</u>（5） 13 卒論最終報告（1） 14 卒論最終報告（2） 15 卒論最終報告（3） 				
事前事後学習（学習課題）				
<p>中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。<u>卒論の構成・展開の指導</u>を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。</p>				
成績評価方法				
<p>卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答時における積極性、質問やコメントの内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。</p>				

教材 (テキスト)

特に使用しない。

参考文献

・戸田山和久 『論文の教室：レポートから卒論まで』新版 NHKブックス 2012年
卒論のテーマに関連する文献は指導の過程で適宜紹介する。

備考

- ・受講者数によって、演習のスケジュールを調整する場合がある。
- ・卒業論文の執筆言語は日本語または英語とする。

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： 李 佳
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 卒論作成のスケジュールの説明、研究論文の書き方ガイダンス 2 各自のテーマに関する仮説、論証の収集状況、計画書の報告（1） 3 各自のテーマに関する仮説、論証の収集状況、計画書の報告（2） 4 各自のテーマに関する仮説、論証の収集状況、計画書の報告（3） 5 各自のテーマに関する仮説、論証の収集状況、計画書の報告（4） 6 卒論中間報告（1） 7 卒論中間報告（2） 8 卒論作成活動、指導（1） 9 卒論作成活動、指導（2） 10 卒論作成活動、指導（3） 11 卒論作成活動、指導（4） 12 卒論作成活動、指導（5） 13 卒論最終報告（1） 14 卒論最終報告（2） 15 卒論最終報告（3） 				
事前事後学習（学習課題）				
中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。				
成績評価方法				
卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質疑応答時における積極性、質問やコメントの内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				

教材 (テキスト)

特に使用しない。

参考文献

・戸田山和久 『論文の教室：レポートから卒論まで』新版 NHKブックス 2012年
卒論のテーマに関連する文献は指導の過程で適宜紹介する。

備考

- ・受講者数によって、演習のスケジュールを調整する場合がある。
- ・卒業論文の執筆言語は日本語または英語とする。

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： 天龍 洋平
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表</u>、<u>討論を通じて学習する</u>。後半では、<u>卒業論文の構成・展開</u>に関して教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 各自の論文の中間発表（1） 2 各自の論文の中間発表（2） 3 <u>各自の論文の中間発表（3）</u> 4 <u>各自の論文の中間発表（4）</u> 5 <u>各自の論文の中間発表（5）</u> 6 <u>各自の論文の中間発表（6）</u> 7 <u>卒論中間発表全体についてのまとめと講評、卒論執筆上の注意点の再確認</u> 8 <u>卒論の構成・展開の指導（1）</u> 9 <u>卒論の構成・展開の指導（2）</u> 10 <u>卒論の構成・展開の指導（3）</u> 11 <u>卒論の構成・展開の指導（4）</u> 12 <u>卒論の構成・展開の指導（5）</u> 13 <u>卒論の構成・展開の指導（6）</u> 14 卒業論文報告会（1） 15 卒業論文報告会（2） 				
事前事後学習（学習課題）				
<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。 ・論文作成の指導を受けた後、教員の指摘したことを速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。 ・新たに必要となる文献収集とその読み込みは欠かさないこと。 ・質問などがある場合は速やかに教員に相談すること。 				
成績評価方法				
卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、内容の評価、卒				

業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。

教材 (テキスト)

- ・ 酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版』共立出版、2017年、ISBN : 9784320005983.
- ・ 二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』日本評論社、2015年、ISBN : 9784535556737.

参考文献

- ・ 酒井聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版、2015年、ISBN : 9784320005952.
- ・ 酒井聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版、2015年、ISBN : 9784320005952.
- ・ David N. Weil. (2013), Economic Growth Third Edition, Pearson, ISBN: : 9780273769293.
- ・ Charles I. Jones and Dietrich Vollrath. (2013), Introduction to Economic Growth, W. W. Norton & Company, ISBN : 9780393920789.
- ・ Philippe Aghion and Peter W. Howitt. (2008), The Economics of Growth, The MIT Press, ISBN : 9780262012638.

備考

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文を含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	semester： 8	担当教員名： 天龍 洋平
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要 専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。 この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。				
○授業目標 卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容） 1 各自の論文の中間発表（1） 2 各自の論文の中間発表（2） 3 論文作成活動、指導（1） 4 論文作成活動、指導（2） 5 論文作成活動、指導（3） 6 論文作成活動、指導（4） 7 論文作成活動、指導（5） 8 論文作成活動、指導（6） 9 論文作成活動、指導（7） 10 論文作成活動、指導（8） 11 論文作成活動、指導（9） 12 論文作成活動、指導（10） 13 論文作成活動、指導（11） 14 卒業論文報告会（1） 15 卒業論文報告会（2）				
事前事後学習（学習課題） ・中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、卒業論文執筆に反映させること。 ・論文作成の指導を受けた後、教員の指摘したことを速やかに整理し、論文の内容の修正等を行うこと。 ・新たに必要となる文献収集とその読込みは欠かさないこと。 ・質問などがある場合は速やかに教員に相談すること。				
成績評価方法 卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				
教材（テキスト）				

・酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版』共立出版、2017年、ISBN : 9784320005983.

・二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』日本評論社、2015年、ISBN : 9784535556737.

参考文献

・酒井聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版、2015年、ISBN : 9784320005952.

・酒井聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版、2015年、ISBN : 9784320005952.

・David N. Weil. (2013), Economic Growth Third Edition, Pearson, ISBN: : 9780273769293.

・Charles I. Jones and Dietrich Vollrath. (2013), Introduction to Economic Growth, W. W. Norton & Company, ISBN : 9780393920789.

・Philippe Aghion and Peter W. Howitt. (2008), The Economics of Growth, The MIT Press, ISBN : 9780262012638.

備考

(別紙資料5【新】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文含む）	選択/必修： 必修	単位数： 2	セメスター： 8	担当教員名： Gorshkov Victor
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、<u>演習での中間発表</u>、<u>討論を通じて学習</u>する。後半では、<u>卒業論文の構成・展開に関して</u>教員の指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 本授業のスケジュールについて。<u>卒論中間発表、指導</u> 1 2 <u>卒論中間発表、指導</u> 2 3 <u>卒論中間発表、指導</u> 3 4 <u>卒論中間発表、指導</u> 4 5 <u>卒論中間発表、指導</u> 5 6 <u>卒論中間発表、指導</u> 6 7 <u>卒論中間発表、指導</u> 7 8 <u>卒論中間発表、指導</u> 8 9 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 1 10 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 2 11 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 3 12 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 4 13 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 5 14 <u>卒論の構成・展開の指導</u> 6 15 卒論の発表会 				
事前事後学習（学習課題）				
卒業論文中間報告を適時に行うこと。中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、論文に反映させること。 <u>卒論の構成・展開の指導</u> を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の修正等を行うこと。				
成績評価方法				
卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				
教材（テキスト）				
特に使用しない。				

参考文献

・白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』、ミネルヴァ書房、2012年
他の参考文献を指導の過程で適宜紹介する。

備考

- ・個人ワークを中心とした授業である。個人研究報告を適時に行い、その内容に関する議論やディスカッション等をクラス全体で行う。ディスカッションへの積極的な参加が求められる。
- ・授業にてフィードバックを行う。また、提出物にコメントをつけて、適時にフィードバックを行う。
- ・専門演習 I –IV の受講生は、世界経済入門、**Current Issues in the World Economy**、新興国経済論、ロシア経済、**Business Studies in North East Asia** を履修することが望ましい。
- ・英語の文献を適時に取り入れるため、英語力のある学生を歓迎する。また、英語での卒業論文執筆を可能とする。
- ・専門演習 I –IV での学習過程は授業外のものを含む。他大学との合同ゼミナールへの参加、工場見学、合宿における学習活動、卒業論文発表会にも積極的に参加すること。

(別紙資料5【旧】)

授業科目名： 専門演習Ⅳ（卒業論文含む）	選択/必修： 必修	単位数： 4	セメスター： 8	担当教員名： Gorshkov Victor
○ディプロマポリシーとの関連				
知識・理解	基本的技能・態度	コミュニケーション能力	総合活用力	
○	○	○	○	
○授業科目の概要				
<p>専門演習Ⅲで決定されたテーマと分析手法に基づき、卒業論文執筆を進める。中間発表の場を設けることなどを通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方などについて教員が個別指導を行う。</p> <p>この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて学習する。後半では、教員の個別指導を受けて卒業論文を完結する。</p>				
○授業目標				
卒業論文の執筆に向けて、これまで大学で学習したスキル、獲得した能力を総合し、論文を完成させる。				
○授業計画（授業スケジュールと内容）				
<ol style="list-style-type: none"> 1 本授業のスケジュールについて。卒論中間発表、質疑応答、講評1 2 卒論中間発表、質疑応答、講評2 3 卒論中間発表、質疑応答、講評3 4 卒論中間発表、質疑応答、講評4 5 卒論中間発表、質疑応答、講評5 6 卒論中間発表、質疑応答、講評6 7 卒論中間発表、質疑応答、講評7 8 卒論中間発表、質疑応答、講評8 9 卒論個別指導1 10 卒論個別指導2 11 卒論個別指導3 12 卒論個別指導4 13 卒論個別指導5 14 卒論個別指導6 15 卒論の発表会 				
事前事後学習（学習課題）				
卒業論文中間報告を適時に行うこと。中間発表を行った後、そこでの議論を速やかに整理し、論文に反映させること。個別指導を受けた後、教員の指摘を速やかに整理し、論文の修正等を行うこと。				
成績評価方法				
卒論中間報告時の資料、説明、質問への応答などの総合評価、質問における積極性、内容の評価、卒業論文の内容、完成度等を勘案し成績を評価する。				
教材（テキスト）				
特に使用しない。				

参考文献

・白井利明・高橋一原著『よくわかる卒論の書き方』、ミネルヴァ書房、2012年
他の参考文献を指導の過程で適宜紹介する。

備考

- ・個人ワークを中心とした授業である。個人研究報告を適時に行い、その内容に関する議論やディスカッション等をクラス全体で行う。ディスカッションへの積極的な参加が求められる。
- ・授業にてフィードバックを行う。また、提出物にコメントをつけて、適時にフィードバックを行う。
- ・専門演習 I –IV の受講生は、世界経済入門、**Current Issues in the World Economy**、新興国経済論、ロシア経済、**Business Studies in North East Asia** を履修することが望ましい。
- ・英語の文献を適時に取り入れるため、英語力のある学生を歓迎する。また、英語での卒業論文執筆を可能とする。
- ・専門演習 I –IV での学習過程は授業外のものを含む。他大学との合同ゼミナールへの参加、工場見学、合宿における学習活動、卒業論文発表会にも積極的に参加すること。